

授業科目名	緩和医療学	単位認定者	齋藤龍生
対象学年	第3学年	学期	前期
単位数	1単位(7.5コマ)	必修・選択	選択

指導方法	講義
科目の目的	緩和医療(ケア)とは、終末期に限らず医療のさまざまな分野で必要であることが認識され、癌医療における早期導入、慢性疾患への対応など応用範囲が広がりつつある。がん患者への積極的な全人的医療として身体的・精神的・社会的・霊的苦痛の緩和、家族・遺族への支援についての理論や援助方法を学習する。また、チーム医療の必要性、緩和ケア・ホスピスケアの実際、チームにおける多職種の役割や機能について学習する。
学習到達目標	緩和医療(ケア)の歴史と緩和医療(ケア)の基本的考えを知る。 緩和医療を取り巻くシステムと問題点を知る。 緩和医療における治療理念と倫理的問題を含め治療方法および援助方法を理解する。 緩和医療(ケア)が患者・家族のQOL向上に大きな役割を果たすことを理解する。 終末期における家族ケア、遺族ケアの重要性を理解する。 緩和ケアにおけるチーム医療の必要性とチームにおける多職種の役割や機能について理解する。
関連科目	生命倫理・生活学・家族学・地域社会学・解剖学・生理学・疾病の成り立ち・薬理学・看護学入門・臨床心理学・リハビリテーション工学基礎・栄養学・カウンセリング・社会福祉地域サービス論・看護学概論・看護過程論・看護ケア方法論・看護アセスメント演習・成人・老年看護学概論・在宅看護活動論
成績評価方法	レポート

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	緩和医療学総論	緩和医療の歴史と緩和医療の基本的考え方を講義すると共に、がん患者さんが抱えている問題点を提示します。その中で、「末期がんの患者さんと如何に話すか?」、「患者さんが人間らしく生きるために何が出来るか?」について、一緒に考えていく講義を予定しています。患者さんとのコミュニケーションスキルの向上を目指し、基本的な技術を紹介いたします。	【必修問題】 看護に必要な人体の構造と機能および健康障害と回復についての基礎的知識を問う。 4.薬物治療に伴う反応 A.おもな薬物の作用と副作用 b)抗がん薬 h)麻薬	
2	緩和医学各論	疼痛緩和 疼痛の考え方 鎮痛剤の使い方・副作用対策 オピオイドローテーションについて 事例を提示し疼痛緩和について考えていく	【疾病の成り立ちと回復の促進】 目標 2.看護の役割を理解し生活を調整するために、さまざまな疾病がもたらす身体内部の変化についての理解を問う。 2.疾病に対する医療と看護 B.異常状態に影響する治療と看護 a)おもな治療薬・麻酔薬と薬理作用 g)麻薬	
3	緩和医学各論	終末期の栄養管理 地域における緩和医療 鎮静について	【在宅看護論】 目標 2.在宅における看護実践についての理解を問う。 3.在宅療養者の状態別看護 D.ターミナル期の療養者 a)症状コントロール b)家族支援 c)チーム医療 d)自己決定への支援 e)遺族への看護	
4	緩和ケアの実際 ・疼痛緩和の看護	疼痛マネジメントにおける看護の役割について 効果的な疼痛マネジメントのためのアセスメントと援助方法について事例を提示し考えていく		
5	緩和ケアの実際 ・他の症状緩和の看護 ・全人的苦痛の緩和	他の症状マネジメントにおける看護の役割 効果的な疼痛マネジメントのためのアセスメントと援助方法について事例を提示し考えていく 全人的苦痛の緩和 精神的苦痛と霊的苦痛(スピリチュアルペイン)のケアについて		
6	緩和ケアの実際 ・家族ケア ・遺族ケア	緩和ケア病棟における終末期患者の家族ケアと遺族ケアの実際について		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
7	緩和医療におけるチームアプローチ	緩和ケア病棟におけるチーム医療 チームにおける看護の役割と多職種の役割と機能	【成人看護学】 目標 3. 成人の健康レベルに応じた看護実践についての理解を問う。 目標 3. 成人のケ高レベルに応じた看護実践についての理解を問う。 5. 終末期の看護 A. 緩和ケア a) 苦痛のアセスメント b) 疼痛コントロール c) QOL (クオリティ・オブ・ライフ) の保障 d) 悲嘆へのケア	
8	レポート	もし、あなたが今、肺がんの末期と診断された場合、何をどう考えどのようにしたいですか。また、残された時間をどのように過ごしたいですか。(死生観)		

教科書	使用せず
参考書	「臨床緩和ケア」大学病院の緩和ケアを考える会（青海社） 「緩和・ターミナルケア看護論」鈴木志津枝/内布敦子（ヌヴェール） 「ターミナルケア 10 月増刊号わかる できる がんの症状マネジメント」ターミナルケア編集委員会（三輪書店） 「家族看護 特集 終末期患者の家族への看護」野嶋佐由美/渡邊裕子（日本看護協会） 「家族看護 特集 遺族に対するケア」野嶋佐由美/渡邊裕子（日本看護協会） 「ナースのためのアロマセラピー」日本アロマセラピー学会看護研究会（MC メディカル出版）

授 業 科 目 名	リハビリテーション工学基礎	単 位 認 定 者	目 黒 力
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 7 . 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義・実習
科 目 の 目 的	リハビリテーション工学とは、工学的手法をリハビリテーションに応用するものであり、その応用範囲はとても広く、リハビリテーションの評価、治療、装具、生活支援など様々なものに応用されている。本科目では、この中でも、身体機能の評価に用いられる工学的手法について扱う。近年、これらは看護学においても多く利用されるようになってきている。将来セラピスト・看護師として、これらの手法を利用できるようにすることを目的とする。
学 習 到 達 目 標	障害者に対する工学からのアプローチを理解し、その概要を理解する。
関 連 科 目	疾病の成り立ち、リハビリテーション概論
成 績 評 価 方 法	レポート

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	福祉機器概論とは 工学的基礎	歴史、定義、関連領域との関わり、開発 工学とは、とらえ方、考え方	疾病の成り立ちと回復の 促進 目標 . 疾病がもたらす身 体内部の変化についての 理解を問う。 3. 疾病に対する医療 e. リハビリテーション	
2	姿勢保持装置 車いす	シーティング概要 最新車いす事情と解析手法		
3	昇降装置・リフト 福祉車両	ホームエレベーターなど メーカーの取り組み、トピックス		
4	視覚・聴覚障害者に 対する福祉機器	音声案内システム、白杖等		
5	コミュニケーション 環境制御装置	トーキングエイドなど 在宅障害者を含むベッド周辺の福祉機器		
6	ハウスアダプテーシ ョン	住宅の改造とその手法		
7	自助具 ネットワークとP C	パーソナルコンピューター、インターネット		
8		まとめ		

教 科 書	「リハビリテーション工学と福祉機器」千野直一・安藤徳彦他 著（金原出版）
参 考 書	講義の中で紹介する

授業科目名	救急法	単位認定者	北林司
対象学年	第3学年	学期	前期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	選択

指導方法	講義・演習
科目の目的	呼吸器系・心血管系・脳血管系の解剖生理と主要な疾患を理解し、心停止・呼吸停止・異物による気道閉塞のような生命が危険にさらされた人を救命する方法を理解する。さらに、気道確保・人工呼吸・心臓マッサージ・AEDによる除細動などの一連の救命処置（BLS）が実践できることを目的とする。
学習到達目標	1.急激に生命が危険にさらされる呼吸器障害、心血管系障害、脳血管系障害が説明できる。 2.救命の連鎖について説明できる。 3.一次救命処置（BLS）について説明できる。 4.気道異物（FBAO）の治療手順を説明できる。 5.AEDを含む一次救命処置（BLS）が実践できる。
関連科目	解剖学・生理学・疾病の成り立ち・基礎看護学・成人看護学・災害看護
成績評価方法	実技試験

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	わが国の救命医療体制	わが国救命医療体制を理解する。 救急医療従事者（EMS）について理解する。	必修問題 。看護に必要な人体の機能および健康障害と回復についての基礎知識を問う。	人体の構造と機能および心身の発達
2	一次救命処置（BLS）	一次救命処置、二次救命処置の区分を理解する。 救命の連鎖について理解する。	1.生命活動 A.人体の構造と機能 e.循環器 f.呼吸器 g.神経細胞と情報伝達 C.人間の死 a.死の三徴候 b.脳死 2.病態と看護 A.症状と看護 e.チアノーゼ f.呼吸困難 g.胸痛 h.不整脈 i.血圧上昇、低下 r.ショック	1.解剖学 D.神経系 a.中枢神経系 b.末梢神経系 E.脈管系 a.心臓 b.動脈系 c.静脈系 F.内臓諸器官 b.呼吸器系 G.感覚器系 a.中枢神経系 2.生理学 C.筋生理 a.刺激と興奮 b.筋の収縮 D.神経生理 a.興奮と伝導 c.中枢神経 d.末梢神経 F.呼吸生理 G.血液、循環 H.嚥下、消化、呼吸
3	呼吸器系、心血管系、脳血管系の解剖と生理学	呼吸器系の解剖・生理を理解する。 心血管系の解剖・生理を理解する。 脳血管系の解剖・生理を理解する。	3.主要疾患と看護 A.生活習慣病 b.虚血性心疾患 c.高血圧症 d.脳血管疾患 C.外傷 a.骨折 c.外傷性ショック	疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進
4	急性冠症候群（ACS）について	急性冠症候群（ACS）を理解する。 急性心筋梗塞（AMI）の症状を理解する。 胸部不快感を訴える人に、救助者が行うべき適切な救命活動を理解する。	人体の構造と機能 目標 1. 日常生活を営む上で、人体がどのような構造を持ち機能しているかについての理解を問う。 疾病によって人体が受ける構造と機能の変化を学習する土台となる正常な人体についての理解を問う。	1.病理学概論 D.循環障害 3.臨床医学大要（概論） A.一般臨床医学 a.問診、身体所見、記録 h.救急、組成、ICU、CCU i.外科（腹部、心血管、胸部）疾患 j.脳神経外科（外傷、血管、腫瘍）疾患 h.生活習慣病 B.内科学 a.症候学と病態生理 b.診断学 f.呼吸器疾患 g.循環器疾患 D.整形外科学 c.整形外科的症候と診断
5	急性脳血管障害について	一過性脳虚血発作（TIA）について理解する。 虚血性脳血管障害について理解する。 出血性脳血管障害について理解する。 急性脳血管障害の可能性のある人に、救助者が行うべき適切な救命活動を理解する。	4.循環系 A.心臓 a.心臓と心筋の構造 b.心臓の機能 c.刺激伝導系	
6	成人に対する CPR	反応のない成人傷病者を発見した時の適切な行動を理解する。 気道確保の方法を理解する。 呼吸の有無を確認する方法を理解する。 人工呼吸の方法を理解する。		
7	成人に対する CPR	循環の有無を確認する方法を理解する。 胸骨圧迫心臓マッサージの方法を理解する。 人工呼吸と心臓マッサージを組み合わせた方法を理解する。		
8	成人に対する CPR	早期除細動の重要性を理解する。 AEDの目的を理解する。 AEDの使用方法を理解する。 AEDから「ショックの適応なし」のメッセージが出たときにとるべき行動を理解する。		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
9	成人の異物による気道閉塞（FBAO）について	成人の異物による気道閉塞の原因を理解する。反応のある成人の FBAO に対する治療手順を理解できる。 反応のない成人の FBAO に対する治療手順を理解する。	9.呼吸の機構 A.換気と発生 C.気管、肺の構造と機能 d.呼吸運動 疾病の成り立ちと回復の促進 目標 3.回復に向けて生活を調整するために、生存・生活機能別疾病の特性についての理解を問う。 1.中枢神経機能の障害 A.脳機能の障害 a.脳血管系の循環障害 b.頭蓋内圧亢進を伴う疾患 2.生命維持機能の障害 A.生命の危機 a.ショック B.呼吸機能の障害 d.急性および慢性的の呼吸不全 C.循環機能の障害 b.後天的に心機能の障害を引き起こす疾患 c.心筋の酸素欠乏による新機能の障害 d.新機能の低下をきたした状態 e.心臓のリズムの障害 基礎看護学 目標 2.基本的看護技術についての理解を問う。 3.診療に伴う技術 D.生命の危機にかかわる技術 a.生命徴候のアセスメントと援助方法 b.呼吸を楽にする姿勢・呼吸法 c.循環管理 d.保温 E.災害看護 a.トリアージ 成人看護学 目標 3.成人の健康レベルに応じた看護実践についての理解を問う。 2.急激な身体侵襲により急性期にある成人の看護 A.救急救命時の看護 a.緊急性と原因のアセスメント b.心配蘇生法 e.外傷、熱傷、骨折の応急処置 f.危機状態への精神的支援 目標 4.機能障害を持つ成人の看護実践について問う。 1.呼吸機能障害を持つ患者の看護 B.おもな看護 g.呼吸困難時の安楽な体位 2.循環機能障害を持つ成人の看護 A.観察とアセスメント d.障害の原因と程度 7.認知機能・コミュニケーション障害を持つ患者の看護 A.観察とアセスメント a.意識障害の診察法	e.保存的治療 o.外傷と骨折 p.脊髄・脊椎疾患および損傷 E.臨床神経学 a.脳・神経の構造と生理 b.脳・神経の病態生理 f.脳血管障害 g.外傷性脳損傷 4.リハビリテーション医学 B.機能障害の病態生理と回復 b.骨関節損傷 f.脊髄の障害 h.呼吸機能 i.心機能 E.リハビリテーション医学の臨床 a.脳血管障害 b.外傷性脳損傷 c.脊髄損傷 l.呼吸器疾患 m.循環器疾患
10	CPR 演習	成人に対する的確な CPR が実践できる。 成人の FBAO に対する的確な治療が実践できる。		
11	CPR 演習	成人に対する的確な CPR が実践できる。 成人の FBAO に対する的確な治療が実践できる。		
12	CPR 演習	成人に対する的確な CPR が実践できる。 成人の FBAO に対する的確な治療が実践できる。		
13	CPR 演習	成人に対する的確な CPR が実践できる。 成人の FBAO に対する的確な治療が実践できる。		
14	CPR および FBAO に対する活動のまとめ	一連の CPR、FBAO に対する活動の内容を説明できる。		
15	CPR および FBAO に対する活動のまとめ	一連の CPR、FBAO に対する的確な活動が実践できる。		

教科書	使用しない
参考書	ポケットマスク購入要

授 業 科 目 名	地 域 保 健 行 政	単 位 認 定 者	大 野 絢 子
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	保健師の活動は、担当する地域の健康政策や施策の立案、健康問題解決のための具体的活動が求められる。活動は、各方面の関係者との調整、協力により進められる。これらの活動の基礎となる法律、制度、政策についての理解を深めることを目的とする。
学 習 到 達 目 標	保健医療の行財政の基本的な知識を理解させ、地域の健康問題の解決に必要な社会資源の開発や、保健医療のサービスの調整及び評価を行なうための基本的な能力を養う。また、地方公共団体行政の保健医療計画及びサービス実施計画に必要な知識を習得させる。
関 連 科 目	1 社会福祉・社会保障制度論 2 保健師教育科目のうち、公衆衛生学、健康管理論、社会福祉・地域サービス論、地域看護活動論
成 績 評 価 方 法	定期試験

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	保健医療福祉行政のめざすもの	1 公衆衛生の定義 2 保健医療行政のめざすものは何か	【必修問題】 看護の社会的側面および倫理的側面に関する基礎的知識を問う 3.保健医療制度の基本 A.医療保険制度 B.介護保険制度	【保健医療福祉行政論】 1.保険医療福祉行財政の理念としくみ A.保健医療福祉の行政 B.保健医療福祉の財政 2.社会情勢の変化と保健医療福祉行政の考え方の返還 A.公衆衛生政策の基盤形成 B.新たな課題と政策の発展 C.政策の充実と転換 3.地域保健医療福祉行政と保健師活動 D.医療提供体制 2.社会情勢の変化と保健医療福祉行政の考え方の返還 C.政策の充実と転換 4.保健医療福祉の計画と評価 A.地方公共団体の保健医療福祉計画 B.地方自治体の計画策定 C.計画の推進と管理・評価
2	わが国の保健医療福祉制度の変遷	1 公衆衛生の基盤形成 2 新たな課題と政策の発展		
3	保健医療福祉行政の財政の仕組み	1 国・都道府県・市区町村の行政の仕組みと役割 2 地方公共団体の行政の単位と仕組み 3 保健医療福祉の財政		
5	同上	介護保険制度		
6	地域保健行政と保健師活動	1 地域保健の体系 a地域保健活動と地方自治 b地域保健に関する公的機関 c保健所の役割と機能強化 d市町村保健センターの役割		
9	同上	2 地域単位の保健師活動と連携		
10	同上	3 健康危機管理		
11	同上	4 情報公開・個人情報保護と公務員医療従事者としての保健師		
12	保健医療福祉の計画と評価	1 地方公共団体の保健医療福祉計画		
13	同上	2 保健計画の策定プロセス 3 保健計画の推進と評価		
14	保健行政に関する法律	1 医療法 2 保健師・助産師・看護師法 3 看護師等の人材確保の推進に関する法律		

教 科 書	1 「標準保健師講座 別巻1 保健医療福祉行政論」(医学書院) 2 「国民衛生の動向」(厚生統計協会) 3 「基本医療六法 平成22年度版」(中央法規) 4 「福祉小六法 2010」(中央法規)
参 考 書	1 「最新保健学講座7 保健医療福祉行政論」(メヂカルフレンド社) 2 「公衆衛生看護学大系の保健福祉行政論」(日本看護協会出版会)

授 業 科 目 名	看 護 研 究 論	単 位 認 定 者	城 生 弘 美
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	通 年
単 位 数	2 単 位 ( 3 0 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義と演習
科 目 の 目 的	看護研究とは何か、看護研究の意義と方法を学ぶ。実践の中から研究的取り組みが必要な研究領域の決定、文献検索、概念枠組み、研究課題と目的の設定、さらに研究課題・目的を究明するための研究デザインと研究方法の決定という一連の過程を学ぶ。 また、研究における倫理的配慮、データの収集・集計・分析について学習する。さらに、これらの過程を詳細な研究計画書にまとめ、論文作成について理解を深める。
学 習 到 達 目 標	1. 看護研究の意義と目的が理解できる。 2. 看護研究の方法（デザイン）について理解できる。 3. 記述統計の基本的処理方法が理解できる。 4. 文献検索方法が理解でき、自分で必要な文献を収集することができる。 5. 収集した文献を読むことができる（文献カード作成） 6. 卒業研究に向けて自分の研究テーマを探ることができる。
関 連 科 目	既習の科目全て
成 績 評 価 方 法	出席状況とレポートを総合して評価する

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1 2	看護研究とは 研究に必要な能力 看護研究の目的と意義	看護における研究の役割について理解する。 看護研究の目的について理解する。 看護研究を通して、何について研究するのか理解する。また目的を到達した結果、その研究はどのような意義をもたらすものかまで考察することの必要性を理解する。		
3 4	研究の種類（デザイン）と特徴	研究目的によって、研究の種類と特徴があることを理解する。		
5 6 7	研究プロセス 研究疑問・文献検索・文献検討 研究計画書・倫理 文献検索について	研究課題の見つけ方・絞り方について理解する。 研究課題と研究の考え方の枠組みの明確化について知る。 研究方法の選定について理解する。 研究データの収集について理解する。 研究データの分析について理解する。 研究成果の発表について理解する。		
8 9	先行研究クリティーク	先行研究（原著）論文をどのように読み進めるか演習しながら理解する。		
10 11	記述統計処理の基本 について	量的研究の基本となる記述統計の基本用語の理解と最初の段階の処理方法について理解する。		
12 13 14 15	文献検索実施、文献 カード作成提出	自分の関心あるテーマに沿って、文献を検索し2本文献を読み、文献カードを作成し、何故その文献を読むことにしたか「理由書」を作成することができる。		
16 - 30	看護研究演習	各講座卒業研究指導教員の研究指導テーマについて説明を受ける。 関心のある講座の教員との面接を通して、指導講座に分かれる。 指導教員と研究テーマを検討しながら、4年次の卒業研究につなげる。		

教 科 書	「看護研究」川村佐和子編集（メディカ出版）
参 考 書	「看護における研究」南裕子編集（日本看護協会出版会） 「看護研究のすすめ方よみ方つかい方」数間恵子他編著（日本看護協会出版会）

授業科目名	看護と医療人類学	単位認定者	鹿村真理子
対象学年	第4学年	学期	前期集中
単位数	1単位(7.5コマ)	必修・選択	選択

指導方法	講義とグループワーク
科目の目的	医療人類学は、病気・健康をめぐる人間の行為と概念を一つのまとまった体系とみなして取り扱う学問領域である。看護は患者個人をその対象とする。対象である患者の行動を理解するためには、その背景としての文化的規範に関心を持つ必要がある。現代医療において傍らに存在し患者をケアしようとする看護者にとって、患者を取り巻く社会的文化的文脈の中で医学が定義する「疾病」とは別の「病い」を捉え、理解していくことは重要である。この科目は、このような医療人類学的視点に立ち、日常的看護行為の文化的・社会的背景、「病い」の意味などについて事例を通して学習し、看護に対する考えを深めたり、看護実践に役立てることを目的とする。
学習到達目標	1. 健康や病むことなどについて、人間が持っている観念の多様性を理解する 2. 事例を通して、患者を取り巻く社会的・文化的背景を理解し、看護に対する考え方を深めることができる。
関連科目	関連し合う教養科目－医療民俗学 この科目が基盤となる専門基礎科目－看護学入門 この科目が基盤となる専門科目－看護学概論
成績評価方法	出席状況とレポート

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	医療人類学とは	医療人類学の立場、医療人類学の目的		
2	看護における文化的視点	病い、妊娠、死等における日本の伝統的な捉え方と看護の役割		
3	民族看護論	レイニンガー看護論：文化ケアの多様性と普遍性		
4	事例検討	グループで事例検討		
5	事例検討	グループで事例検討		
6	事例検討	グループで事例検討		
7	発表	発表		
8	まとめ	講評・まとめ		

教科書	
参考書	「いのちの文化人類学」波平恵美子(新潮選書) 「系統看護学講座・基礎9・文化人類学」波平恵美子(医学書院) 「レイニンガー看護論」マデリン M. レイニンガー(医学書院)



授業科目名	成人看護学 (1 - 15回)	単位認定者	牛 込 三 和 子
対象学年	第 3 学 年	学 期	前 期
単 位 数	4 単 位 ( 6 0 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	疾患をもつ成人期にある人々の看護の方法について学ぶ
学 習 到 達 目 標	血液造血管器疾患、神経系疾患、膠原病、糖尿病、腎泌尿器疾患、運動器疾患、感覚器疾患をもつ人々の看護について基礎知識を習得し、看護方法を理解できる。
関 連 科 目	ここまで履修したすべての専門科目。とくに、成人・老年看護学概論、成人看護学 1
成 績 評 価 方 法	筆記試験

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看護師	保健師
1	牛込三和子 神経系疾患患者の看護 1	1. 観察とアセスメント 2. 主な検査・治療と看護 3. 症状・障害と看護	目標 4. 機能障害をもつ成人への看護実践について問う。	
2	神経系疾患患者の看護 2	4. 主な疾患患者の看護 脳血管疾患	3. 栄養摂取・代謝疾患をもつ成人への看護	
3	神経系疾患患者の看護 3	5. 主な疾患患者の看護 神経系難病	H. 糖代謝障害の観察とアセスメント	
4	膠原病患者の看護	1. 観察とアセスメント 2. 主な検査・治療と看護 3. 症状に対する看護 4. 主な疾患患者の看護	I. 糖代謝障害のおもな看護 4. 内部環境調節機能障害をもつ成人への看護	
5	萩原英子 血液・造血管器疾患患者の看護	1. 観察とアセスメント 2. 主な検査・治療と看護 3. 症状に対する看護 4. 主な疾患患者の看護	A. 内分泌機能の観察とアセスメント B. 内分泌機能障害の看護 C. 体液調節機能の観察とアセスメント D. 体液不均衡の看護 E. 体温調節機能の観察とアセスメント F. 体温調節機能障害への看護	
6	鈴木珠水 糖尿病患者の看護 1	1. 観察とアセスメント	5. 生体防御機能障害をもつ成人への看護	
7	糖尿病患者の看護 2	2. 主な検査、治療と看護 3. 症状・障害と看護	A. 免疫機能の観察とアセスメント B. 免疫機能低下の看護 C. 感染症の観察とアセスメント D. 感染症の看護	
8	糖尿病患者の看護 3	4. 自己管理支援の看護 (患者教育)	6. 感覚機能障害をもつ成人への看護	
9	腎泌尿器系疾患患者の看護 1	1. 観察とアセスメント 2. 主な検査・治療と看護 3. 症状に対する看護	A. 観察とアセスメント B. おもな看護	
10	腎泌尿器系疾患患者の看護 2	4. 慢性腎不全患者の看護 血液透析 CAPD	8. 運動機能障害をもつ成人の看護	
11	北林 司 運動器疾患患者の看護 1	1. 観察とアセスメント 2. 主な検査・治療と看護 3. 症状・障害に対する看護	A. 観察とアセスメント B. おもな看護	
12	運動器疾患患者の看護 2	4. 主な疾患患者の看護	9. 排泄機能障害をもつ成人への看護	
13	感覚器疾患患者の看護	1. 観察とアセスメント 2. 主な検査・治療と看護 3. 症状・障害に対する看護 4. 主な疾患患者の看護	A. 排尿機能障害の観察とアセスメント B. 排尿機能障害へのおもな看護	
14	萩原英子 がん患者の看護	1. 治療と看護 2. 終末期にある患者の看護	.	
15	まとめ			

教 科 書	「系統看護学講座 成人看護学【2】 - 【15】」(医学書院)
参 考 書	解剖学、生理学、薬理学、病態生理学、疾病の理解等において使用したテキスト

授 業 科 目 名	成人看護学 (16 - 30回)	単 位 認 定 者	牛 込 三 和 子
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	前 期
単 位 数	4 単 位 ( 6 0 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	手術療法および手術室における看護師の役割を理解するとともに、手術を受ける患者の心理、術後の身体反応、想定される看護問題および共同問題、看護活動に関する理解を深める。
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 手術療法を受ける患者の心理が理解できる。</li> <li>2. 手術療法と手術室看護師の役割が理解できる。</li> <li>3. 麻酔の目的、種類、方法が理解できる。</li> <li>4. 術後の身体反応と回復過程が理解できる。</li> <li>5. 周手術期における一般的な看護問題が理解できる。</li> <li>6. 周手術期における一般的な共同問題(術後合併症)が理解できる。</li> </ol>
関 連 科 目	解剖学、生理学、疾病の成り立ち、薬理学、成人・老年看護学概論、成人看護学
成 績 評 価 方 法	筆記試験、出席状況などから総合的に評価する

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
16	北林 司 周手術期看護総論	手術患者の周術期プロセスと看護	成人看護学 目標3.成人の健康レベルに応じた看護実践についての理解を問う。	
17	術前看護1	手術に用いられる器具、衛生材料、縫合材料 手術室看護師の役割	2. 急激な身体侵襲により急性期にある患者の看護	
18	術前看護2	麻酔の目的と種類、方法	B.手術療法時の看護 C.化学療法・放射線療法時の看護	
19	術前看護3	術前患者の心理と看護	目標4.機能障害をもつ成人への看護	
20	術中看護1	術前患者の身体的アセスメントの必要性和術前オピオイド	1. 呼吸機能障害をもつ成人への看護	
21	術中看護2	術前経過にそった看護援助	2. 循環機能障害をもつ成人への看護	
22	術後看護1	手術侵襲と生体反応の理解と反応の段階に応じた看護	3. 栄養・代謝機能障害をもつ成人への看護	
23	術後看護2	術後合併症と関連させた術後の系統的な観察と看護	6. 感覚機能障害をもつ成人への看護	
24	術後看護3	術後痛の特徴、影響要因の理解と看護	7. 認知機能・コミュニケーション障害をもつ成人への看護	
25	術後看護4	術後回復を促進するための看護(早期体動促進・創傷ケア)		
26	周手術期各論1	胃切除術を受ける患者の看護(事例学習)		
27	周手術期各論2	大腿骨頸部骨接合術を受ける患者の看護(事例学習)		
28	周手術期各論3	肺切除術を受ける患者の看護(事例学習)		
29	周手術期各論4	腹会陰式直腸切断術を受ける患者の看護(事例学習)		
30	まとめ			

教 科 書	「周手術期看護論」雄西智恵美・秋元典子監修(ヌーベルヒロカワ)
参 考 書	

授 業 科 目 名	成人看護学 ( 3 1 - 4 5 回 )	単 位 認 定 者	牛 込 三 和 子
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	前 期
単 位 数	4 単 位 ( 6 0 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	事例を用いた看護過程展開演習・看護技術演習
科 目 の 目 的	1.2 年次に学習した看護過程の知識に基づき、健康問題を有する成人の事例を用いて、自身の看護過程展開能力を強化する。 2. 実習に必要な基礎的な看護技術を強化する。
学 習 到 達 目 標	1. 与えられた情報についてアセスメントできる。 2. 介入計画を具体的に提案することができる。 3. 創部処置、ストマケアの方法を理解し実践できる。 4. 呼吸管理に用いる器具の種類と使用法が理解できる。 5. 循環管理に用いる器具の種類と使用法が理解できる。 6. 栄養管理の方法が理解できる。
関 連 科 目	基礎看護学・解剖学・生理学・疾病の成り立ち
成 績 評 価 方 法	出席状況(演習態度含む)・記録およびレポート・技術演習評価表

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
31	看護過程演習 1	(牛込三和子、鈴木珠水、北林司、萩原英子、小池菜穂子) 疾患を持つ成人の看護について、事例に基づいて看護過程を展開する。(心不全・肺がん)	必修問題 ・看護の社会的側面および倫理的側面に関する基礎的知識を問う。 ・看護の対象者および看護活動の場に関する基礎的知識を問う。 ・看護に必要な人体の構造と機能および健康障害と回復についての基礎的知識を問う。 ・看護技術の基礎的知識を問う。	保健師
32	看護過程演習 2			
33	看護過程演習 3	疾患を持つ成人の看護について、事例に基づいて看護過程を展開する。(膀胱がん・糖尿病)	人体の構造と機能 目標 1. 日常生活を営む上で、人体がどのような構造をもち機能しているかについての理解を問う。 疾病によって人体が受ける構造と機能の変化を学習する土台となる正常な人体についての理解を問う。 疾病の成り立ちと回復の促進	保健師
34	看護過程演習 4			
35	看護過程演習 5	疾患を持つ成人の看護について、事例に基づいて看護過程を展開する。(直腸がん・白血病)	目標 1. 生活との関連において健康から疾病に至る変化のプロセスについての理解を問う。 目標 2. 看護の役割を理解し生活を調整するために、さまざまな疾病がもたらす身体内部の変化についての理解を問う。 目標 3. 回復に向けて生活を調整するために、生存・生活機能別疾病の特性についての理解を問う。	保健師
36	看護過程演習 6			
37	看護技術演習 1	創部管理；創部処置、ドレッシング材料の取り扱い、ストマケアの方法 栄養管理 1；血糖値測定	基礎看護学 目標 1. 看護の基本となる概念についての理解を問う。 目標 2. 基本的看護技術についての理解を問う。 目標 3. 保健・医療・福祉の中で看護の果たす役割についての理解を問う。	保健師
38	看護技術演習 2			
39	看護技術演習 3	栄養管理 2；経管栄養、IVH、PEG	成人看護学 目標 1. 成人の生活と健康	保健師
40	看護技術演習 4			
41	看護技術演習 5	循環管理；患者監視装置 呼吸管理 1；肺活量測定、一回換気量測定、パルスオキシメーター		
42	看護技術演習 6			
43	看護技術演習 7	呼吸管理 2；ネブライザー、気管内吸引、人工呼吸器、NPPV、HOT、低圧持続吸引		
44	看護技術演習 8			
45	看護技術演習 9	(牛込三和子、鈴木珠水、北林司、萩原英子、小池菜穂子) 技術チェック(呼吸、循環、栄養)		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
			<p>問題についての理解を問う。</p> <p>目標 2 . 成人を看護するときの基本的なアプローチについての理解を問う・</p> <p>目標 3 . 成人の健康レベルに応じた看護実践についての理解を問う。</p> <p>目標 4 . 機能障害をもつ成人への看護実践について問う。</p> <p>老年看護学</p> <p>目標 1 . 高齢者の特徴とその生活についての理解を問う。</p> <p>目標 2 . 高齢者の生命維持・健康生活維持のための看護実践についての理解を問う。</p>	

教科書	「系統看護学講座 成人看護学【2】 - 【15】」(医学書院)
参考書	随時紹介する。

授 業 科 目 名	成人看護学 (46 - 60回)	単 位 認 定 者	牛 込 三 和 子
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	前 期
単 位 数	4 単 位 ( 6 0 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	1. 成人期にある人々に発症する疾病について、その病因、病態生理、症状、診断、検査、治療の概要について学ぶ。 2. 機能障害をもつ成人期にある人々の看護の方法について学ぶ。
学 習 到 達 目 標	1. 栄養代謝疾患、内分泌疾患、腎疾患、感染症、アレルギー・免疫疾患、膠原病と類縁疾患、骨・関節・筋疾患、泌尿器疾患、女性生殖器疾患、眼疾患、耳鼻咽喉疾患、歯・口腔疾患の病態生理、症状、診断、検査、治療を理解できる。 2. 栄養代謝疾患、内分泌疾患、腎疾患、感染症、アレルギー・免疫疾患、膠原病と類縁疾患、骨・関節・筋疾患、泌尿器疾患、女性生殖器疾患、眼疾患、耳鼻咽喉疾患、歯・口腔疾患をもつ成人期にある人々の看護方法を理解できる。
関 連 科 目	基礎看護学・解剖学・生理学・老年看護学
成 績 評 価 方 法	出席状況・記録およびレポート・試験

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看護師	保健師
46	小林 功 血液疾患	主な血液疾患の病態生理、症状、検査、治療	<b>必修問題</b> ・看護の社会的側面および倫理的側面に関する基礎的知識を問う。 ・看護の対象者および看護活動の場に関する基礎的知識を問う。 ・看護に必要な人体の構造と機能および健康障害と回復についての基礎的知識を問う。 ・看護技術の基礎的知識を問う。 <b>疾病の成り立ちと回復の促進</b> 目標 1. 生活との関連において健康から疾病に至る変化のプロセスについての理解を問う。 目標 2. 看護の役割を理解し生活を調整するために、さまざまな疾病がもたらす身体内部の変化についての理解を問う。 目標 3. 回復に向けて生活を調整するために、生存・生活機能別疾病の特性についての理解を問う。 <b>成人看護学</b> 目標 1. 成人の生活と健康問題についての理解を問う。 目標 2. 成人を看護するときの基本的なアプローチについての理解を問う。 目標 3. 成人の健康レベルに応じた看護実践についての理解を問う。 目標 4. 機能障害をもつ成人への看護実践について問う。	
47	栄養代謝障害 1	主な栄養・代謝疾患の病態生理、症状、検査、治療		
48	栄養代謝障害 2	主な栄養・代謝疾患の病態生理、症状、検査、治療		
49	栄養代謝障害 3	主な栄養・代謝疾患の病態生理、症状、検査、治療		
50	内分泌疾患	主な内分泌疾患の病態生理、症状、検査、治療		
51	腎疾患 1	主な腎疾患の病態生理、症状、検査、治療		
52	腎疾患 2	主な腎疾患の病態生理、症状、検査、治療		
53	感染症	主な感染症疾患の病態生理、症状、検査、治療		
54	アレルギー・免疫疾患、膠原病と類縁疾患	主なアレルギー・免疫疾患、膠原病と類似疾患の病態生理、症状、検査、治療		
55	泌尿器疾患	主な泌尿器疾患の病態生理、症状、検査、治療		
56	女性生殖器疾患	主な女性生殖器疾患の病態生理、症状、検査、治療		
57	眼疾患	主な眼疾患の病態生理、症状、検査、治療		
58	耳鼻咽喉疾患	主な耳鼻咽喉疾患の病態生理、症状、検査、治療		
59	皮膚疾患・歯・口腔疾患	主な皮膚・歯・口腔疾患の病態生理、症状、検査、治療		
60	まとめ			

教 科 書	医学書院 系統看護学講座 【2】 - 【15】 「周手術期看護論」 雄西 智恵美、秋元 典子 編集 (ヌーヴェルヒロカワ)
参 考 書	随時紹介する

授業科目名	老年看護学	単位認定者	伊藤まゆみ
対象学年	第3学年	学期	前期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	演習、講義
科目の目的	健康な高齢者を対象としたアセスメントの経験をもとに、特徴的な疾患をもつ高齢者の看護過程の展開方法を学習する。また、演習を通して高齢者への援助技術を学習する。
学習到達目標	1. 高齢期に特徴的な疾患をもつ高齢者の事例を用いて、情報の整理、アセスメント、看護診断、計画立案ができる。 2. 事例で設定された個別性、条件をふまえ、援助計画に基づいた看護技術を実施できる。
関連科目	成人・老年看護学概論、老年看護学、基礎看護学
成績評価方法	レポート、技術テスト、期末試験

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	高齢者のアセスメントの実際	課題学習の評価	老年看護学 目標 .健康レベルや療養形態に応じた高齢と、その家族に対する看護実践についての理解を問う。 6. 高齢者の生活を支える看護 7. 高齢者に特有な症候・疾患・障害と看護	
2	高齢者のアセスメントの実際	課題学習の発表		
3	看護過程の展開	認知症高齢者の看護過程		
4	看護過程の展開	脳梗塞患者の看護過程		
5	看護過程の展開	大腿骨頸部骨折患者の看護過程		
6	看護過程の展開	看護過程の展開のまとめ		
7	高齢者への援助技術	食事		
8	高齢者への援助技術	経管栄養		
9	高齢者への援助技術	口腔ケア		
10	高齢者への援助技術	移乗、活動		
11	高齢者への援助技術	体位、褥瘡予防		
12	高齢者への援助技術	排泄ケア		
13	高齢者への援助技術	技術の復習		
14	高齢者への援助技術	技術テスト		
15	まとめ			

教科書	「新体系 看護学全書 29 老年看護学 健康障害をもつ高齢者の看護」(メジカルフレンド社)
参考書	

授業科目名	臨床看護管理学	単位認定者	牛込三和子
対象学年	第4学年	学期	後期
単位数	1単位(7.5コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	医療施設等における看護管理の基本について学ぶ。 医療は、人のいのちを支える活動であり、看護師は、医療チームの一員として、病院では、24時間活動して、患者さんのいのちを支えている。看護サービスの質は、患者さんのいのち、生活の質に影響する。医療施設における看護サービスの質を保证するためのシステム、活動を学び、看護師としてこのことにどう向き合っていくのかを考える。
学習到達目標	1.看護管理を支える組織、リスクマネジメントの基本、関連する社会制度、法を理解できる。 2.病院における安全管理のシステムと実際を理解できる。 3.医療チームの一員として、看護チームの一員として、どのように仕事をしていくのか考えられる。
関連科目	看護学
成績評価方法	筆記試験またはレポート

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	牛込三和子 臨床看護管理学を学ぶにあたって	・医療機関で、看護チームの一員として働くということ	【基礎看護学】 目標 3.保健・医療・福祉のなかで看護の果たす役割についての理解を問う。 1.看護の役割と機能を支えるしくみ D.看護管理 a)看護提供システム(チームナーシング、プライマリナーシング、機能別看護) b)クリティカルパス c)リーダーシップとメンバーシップ d)自己管理・防止システム	
2	會田秀子 医療安全	保健師助産師看護師法の枠組み 事故事例と法(刑事・民事・行政処分) 事故後の当事者教育		
3	ヒューマンエラー (羽鳥)	ヒューマンエラー発生メカニズムと対策 航空機事故と医療事故調査の比較		
4	コミュニケーション (羽鳥)	医療者の言葉を患者がどう理解するか 医療者と医療者の報告・伝達	【必修問題】 ・看護技術の基礎的知識を問う。 3.患者の安全・安楽を守る技術 C.院内感染防止対策	
5	事故事例分析	医療現場で起こる事故事例とその分析		
6	医事紛争	医療事故被害者の思い コンフリクトマネジメント	【基礎看護学】 目標 2.基本的看護技術についての理解を問う。 1.共通基本技術 C.安全を守るための技術 a)感染コントロール	
7	感染防止	院内感染の知識と防止対策 看護技術に焦点を合わせた感染防止		
8	まとめ			

教科書	特になし
参考書	「医療安全ワークブック」川村治子(医学書院) 「実践できる転倒・転落防止ガイド」三宅祥三・杉山良子(学研)

授 業 科 目 名	救 急 看 護	単 位 認 定 者	北 林 司
対 象 学 年	第 4 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 7 . 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義・演習
科 目 の 目 的	救急医療体制における看護師の役割を理解するとともに、病院に搬入されてくる各種救急患者に施される処置、検査に対応する看護活動を理解する。
学 習 到 達 目 標	1. わが国の救急医療体制が理解できる。 2. 救急医療体制における看護師の役割が理解できる。 3. 気道確保、静脈路確保、創傷処置、骨折に対する四肢の固定、NGチューブおよびSBチューブ挿入の方法がわかり実践・介助できる。 4. 心停止、ショック、呼吸困難、意識障害、外傷・熱傷などの患者への対処方法が理解できる。
関 連 科 目	解剖学・生理学・疾病の成り立ち・薬理学・成人看護学・救急法
成 績 評 価 方 法	実技試験

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	わが国の救急医療体制と看護師の役割	1次救急医療・2次救急医療・3次救急医療について概説し、救急医療施設における看護師の役割について解説する。また、救急医療に関連する法律および看護業務と法律についても解説する。	必修問題 看護に必要な人体の構造と機能および健康障害と回復についての基礎知識を問う。 1. 生命活動 A 人体の構造と機能	
2	気道確保法および静脈路確保の方法	用手気道確保と気管内挿管について解説し、マネキンを用いて気管内挿管・静脈路確保について演習する。	2. 病態と看護 3. 主要疾患と看護 4. 薬物治療に伴う反応	
3	創傷処置、骨折時の四肢の固定方法	止血方法、消毒方法、縫合方法、ドレッシングの方法について解説しモデルを用いて演習する。また、四肢の骨折時における固定方法を解説しモデルを用いて演習する。	看護技術の基礎的知識を問う。 3. 患者の安全・安楽を守る技術 4. 診療に伴う看護技術	
4	NGチューブ、SBチューブ留置	NGチューブ、SBチューブ留置の目的、必要物品、留置手順について解説する。	人体の構造と機能 4. 循環系 9. 呼吸の機構	
5	心停止・ショック	心室細動、脈の触れない心室頻拍、心停止、無脈性電気活動、看護師としてのチェック項目について説明する。また、上記4つの病態に応じた処置と看護について解説する。	疾病の成り立ちと回復の促進 目標3. 回復に向けて生活を調整するために、生存・生活機能別疾病の特性についての理解を問う。	
6	呼吸困難・意識障害	呼吸困難をきたす病態・疾患、看護師としてのチェック項目について解説する。また呼吸困難患者に対する処置と看護について解説する。 意識障害の原因、看護師としてのチェック項目、処置および看護について解説する。	1. 中枢神経機能の障害 2. 生命維持機能の障害 成人看護学 目標3. 成人の健康レベルに応じた看護実践についての理解を問う	
7	外傷・熱傷	頭部外傷、胸腹部外傷、四肢外傷、熱傷に対する処置および看護について解説する。	2. 急激な身体侵襲により急性期にある患者の看護 A 救急救命時の看護 a. 緊急性と原因のアセスメント b. 心肺蘇生法 c. 気管切開・気管内挿管時の援助 e. 外傷・熱傷・骨折の応急処置	
8	まとめ			

教 科 書	使用しない。
参 考 書	随時紹介する。



授業科目名	母性看護学	単位認定者	早川有子
対象学年	第3学年	学期	前期
単位数	2単位(30コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義 演習
科目の目的	妊娠・分娩・産褥(新生児含)期に起こる身体的・心理的・社会的変化を理解し、その中で母性看護の役割を考える。また、個別看護が展開できるための基礎的知識・技術を学ぶ。
学習到達目標	1. 正常経過をたどる妊婦・産婦・褥婦・新生児とその看護が理解できる。 2. ハイリスク状況にある妊婦・産婦・褥婦・新生児の経過とその看護が理解できる。 3. 人間の性と生殖とその看護について理解できる。 4. 母子看護とその家族への支援について理解できる。 5. 母子看護に必要な基礎的技術を習得する。
関連科目	教養科目群:生命科学 生命倫理 家族学 性別の社会科学 環境論 生物学基礎 専門基礎科目群:生理学 生化学 発達心理学 免疫・感染症学 社会福祉・地域サービス論 専門科目群:この科目の基盤となる専門科目の全て(主に小児看護学・地域看護学等)
成績評価方法	課題に対するレポート、小テスト、定期試験にて評価する。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1- 2	妊娠の始まりと胎児の成長	・妊娠の成立、胎児の発育と発達について	2-A 胎児期:a 形態的発達	
3- 4	妊娠経過と看護	・妊娠の経過(からだと心の変化:妊婦・胎児) ・妊婦の看護(健康管理・保健指導・妊婦とその家族)	4-A 妊婦の看護:a 妊娠の経過と胎児の発育 b 妊婦の心理 c 妊娠と不快症状 d 妊婦の日常生活とセルフケア e 出産・育児の準備 f 親役割	
5- 6	妊娠期の健康問題とその看護	・ハイリスク妊娠(流産・早産の看護) ・ハイリスク妊娠(妊娠高血圧症候群)	5-A 妊婦の看護:a 流産 b 早産 e 妊娠高血圧症候群	
7- 8	分娩の経過と看護	・分娩の生理と経過 ・産婦の看護(分娩経過に伴う看護、産婦とその家族)	4-B 産婦の看護:a 分娩の経過と胎児の健康状態 b 出産様式、c 産痛の緩和 d 産婦と家族の心理	
9- 10	異常分娩と看護	・帝王切開と看護 ・前置胎盤・常位胎盤早期剥離の看護 ・胎盤の異常	5-B 産婦及び胎児の看護 a 胎児仮死 b 帝王切開術	
11- 12	技術演習	・妊婦・産婦の技術演習(妊婦体験ジャケット・レオポルド触診・腹囲・子宮底測定・妊婦体操・産痛緩和法など)		
13- 14	産褥経過と看護	・産褥の経過(からだと心の変化) ・産褥期にある女性とその家族への日常生活の援助 ・母乳栄養確立への援助	4-C 褥婦の看護:a 産褥の経過 b 褥婦の心理 c 褥婦の日常生活とセルフケア	
15- 16	新生児経過と看護	・新生児の特性と看護(からだと心) ・早期産褥期・早期新生児期の支援	4-D 新生児の看護:a 親子関係 b 育児技術	
17- 18	新生児期の健康問題とその看護	・健康障害のある新生児の看護について ・胎児仮死、低出生体重児、黄疸、先天異常等 ・先天異常、障害をもつ新生児、児を亡くした褥婦の看護	5-C 褥婦および新生児の看護:低出生体重児、先天異常、障害を持つ新生児、死産	
19- 21	人間の性と生殖	・不妊治療 ・不妊治療と看護(生殖をめぐる倫理含む) ・家族計画・人工妊娠中絶	2-D 生殖をめぐる倫理 a 出生前診断 b 不妊治療 c 人工妊娠中絶 3-B 成熟期にある人々の看護 a 家族計画の意義	

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
22 - 23	技術演習	・褥婦・新生児の技術演習（沐浴・外陰部消毒・授乳介助 産褥体操等）	b 不妊治療と看護	
24 - 25	フィジカルアセスメント	・妊婦・産婦・褥婦・新生児フィジカルアセスメント		
26 - 29	看護過程の展開	・事例による看護過程の展開（情報収集・分析・問題点・解決策・具体策・具体策に対する指導案作成等）		
30	全体のまとめ			

教科書	「母性看護学各論」母性看護学（医学書院）
参考書	「母性看護学1、2」（医歯薬出版） 「母性看護技術」（メディカ出版）

授業科目名	母性看護学特論	単位認定者	早川有子
対象学年	第4学年	学期	後期
単位数	1単位(7.5コマ)	必修・選択	選択

指導方法	講義
科目の目的	最近の母性看護の動向を学ぶことを通して、発展的視野で母性看護の役割と今後の課題を考える。
学習到達目標	1.母性看護の役割と意義を考えることができる。 2.母性看護を支援する社会システム・保健医療システムを理解する。 3.母性看護の現状から今後の課題が考えられる。
関連科目	母性・小児看護学、心理学、教育学、生命科学、生命倫理、生活学、家族学、地域社会学、環境論、健康管理論ほか
成績評価方法	講義への出席と参加度、課題によって総合的に評価する。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1-3	母性看護の現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>母性看護学特論の概要</li> <li>母子に関する現状と課題を最近のトピックス(雑誌・新聞など)から考える。</li> </ul>	母性看護学 1.母性看護の概念 C.母性看護と法整備 a.子育て支援施策	
4-6	育児支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>母子を取り巻く(家族・地域・社会)環境を調査或は訪問を通して把握し、育児支援の今後の課題を考える。</li> </ul> 例 市役所 マタニティコーナー 母親グループによる育児支援の実際 病院・助産所・託児所、家庭 育児休暇の取得など		
7	母乳育児支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>母乳育児支援について考える。</li> </ul> 母乳の味 母乳とミルク 母乳と食事 *味センサーを使用し実験する。		

教科書	使用せず
参考書	必要時提示する。

授業科目名	小児看護学	単位認定者	野田智子
対象学年	第3学年	学期	前期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義・演習
科目の目的	さまざまな病気や障害など、何らかの健康問題を抱えた子どもとその家族の特徴や精神的・身体的・社会的諸問題について事例を通して理解を深める。また、それらに応じた看護について学ぶ。さらに、疾患・障害を持った小児とその家族を支える保健・医療・福祉・教育等様々な領域の社会資源と、その活用の意義や方法についても学習する。
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>健康障害を抱えた子どもと家族の生活が、どのように変化しているかを理解する。</li> <li>健康問題を抱えた子どもとその家族の経過別、発達段階別の特徴を理解する。</li> <li>健康問題を抱えた子どもとその家族の精神的・身体的・社会的諸問題の実際を理解する。</li> <li>健康障害を抱えた子どもと家族への具体的看護介入の方法について学び、子どもの最善の利益について考察する。</li> <li>健康障害を抱えた子どもと家族のための社会資源とその活用方法について理解する。</li> </ol>
関連科目	母性・小児看護学(小児看護学概論、小児看護学、小児看護学特論、母性看護学概論、母性看護学、母性看護学特論)、臨地実習(小児看護学実習)、基礎看護学各科目、成人・老年看護学各科目、精神看護学各科目、地域看護学各科目、教養科目群(心理学、教育学、生命科学、生命倫理、生活学、家族学、地域社会学、環境論など)、臨床科目群(解剖学、生理学、発達心理学、疾病の成り立ち、免疫・感染症学ほか)、地域科目群(公衆衛生学、栄養学、健康管理論ほか)
成績評価方法	講義・演習への出席と参加度、課題、テストによって総合的に評価する。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1 2	循環器系疾患を持つ子どもと家族の看護	先天性心疾患(VSD、ファロー四徴症など)で手術を受ける子どもの事例から考える、循環器系の主要症状についてのアセスメント、看護介入の方法、手術前後の看護、事例のアセスメント	【目標2】 1.病気や入院が子どもと家族に与える影響とその看護 A.病気や入院が子どもと家族に与える影響 B.ストレスを緩和するための看護	
3 4	血液系疾患を持つ子どもと家族の看護	急性リンパ性白血病の事例から考える、血液系の主要症状についてのアセスメント、看護介入の方法、検査・処置を受ける子どもの看護、事例のアセスメント	2.さまざまな状況にある子どもと家族への看護 A.外来における子どもと家族 B.検査や処置を受ける子どもと家族 C.活動制限が必要な子どもと家族 D.隔離が必要な子どもと家族	
5 6	呼吸器系疾患を持つ子どもと家族の看護	気管支喘息の事例から考える、呼吸器系の急性症状のアセスメント、子どものセルフケアとコンプライアンス、看護介入の方法、喘息の子どもを支える社会活動(喘息児のサマーキャンプなど)事例のアセスメント	E.先天的な問題をもつ子どもと家族 F.手術を受ける子どもと家族 G.心身障害のある子どもと家族 H.急性期にある子どもと家族	
7 8	泌尿器系疾患を持つ子どもと家族の看護	ネフローゼ症候群(急性糸球体腎炎など)の事例から考える 腎・泌尿器系の主要症状のアセスメント、看護介入の方法、ステロイド療法を受ける子どもへの看護、長期入院入院をする子どもと家族への看護、病気の子どもと学校、事例のアセスメント	L.救急処置が必要な子どもと家族	
9 10	代謝・内分泌系疾患を持つ子どもと家族の看護	型糖尿病の事例から考える、代謝・内分泌系疾患の主要症状のアセスメント、看護介入の方法、思春期の子どもセルフケアを促す看護、事例のアセスメント	地域看護学 6.母子保健指導 D.健康上のリスクをもつ母子への保健師動	
11	予後不良の子どもと家族の看護	小児悪性腫瘍などの事例から考える、よいターミナルケアとは、家族の悲嘆過程	a)心身障害児 c)子どもの虐待	
12 13	低出生体重時と家族の看護 障害のある子どもと家族の看護	低出生体重児の特徴と看護、家族の変化ときょうだいへの影響、家族システムへの影響、未熟児ケアの実際、障害児の療育と看護、家族支援、障害児と家族を支える社会システム、生育限界と倫理問題		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
14 15	小児看護に必要な看護技術	乳児の抱き方、乳児のおむつ交換、治療を受ける子どもの固定・抑制方法 など 病気の子どもの全身管理・口腔管理		

教科書	1. 「系統看護学講座 専門分野 23 小児看護学 [ 2 ] 小児臨床看護各論 第 11 版」奈良間美保他著 (医学書院)
参考書	「基礎看護学ヘルスアセスメント 成長発達に伴うアセスメント 3-4 章 2 節 子どものアセスメント」川村佐和子、城生弘美他編、木内妙子 (メディカ出版) 2004 .

授業科目名	小児看護学特論	単位認定者	野田 智子
対象学年	第4学年	学期	後期
単位数	1単位(7.5コマ)	必修・選択	選択

指導方法	講義、ゼミ形式
科目の目的	現代社会に生きる子どもが置かれている状況と健康問題を幅広い視点から把握する。その子どもと家族の最善の利益と問題解決のために、看護が果たす役割について考察する。
学習到達目標	1. 現代社会における子どもと家族の健康問題について、学生の関心に基づき情報収集を行う。 2. 得られた情報に基づき、学生間で問題解決の方法や子どもの最善の利益について、アドボカシーの観点から討議する。 3. 討議内容を踏まえ、子どもの未来のために看護の果たしうる役割と可能性について考察する。
関連科目	母性・小児看護学(小児看護学、小児看護学、小児看護学特論、母性看護学概論、母性看護学、母性看護学、母性看護学特論)、臨地実習(小児看護学実習)、基礎看護学各科目、成人・老年看護学各科目、精神看護学各科目、地域看護学各科目、教養科目群(心理学、教育学、生命科学、生命倫理、生活学、家族学、地域社会学、環境論など)、臨床科目群(解剖学、生理学、発達心理学、疾病の成り立ち、免疫・感染症学ほか)、地域科目群(公衆衛生学、栄養学、健康管理論ほか)
成績評価方法	講義・ゼミへの出席と参加度、課題レポートによって総合的に評価する。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	ガイダンス	毎回ゼミナール方式で、学生の興味・関心に基づき討議を進める。	【目標1】 1. 子どもと家族の健康の概念 2. 子どもの成長と発達 3. 新生児の健康増進のための看護 4. 乳児の健康増進のための看護 5. 幼児の健康増進のための看護 6. 学童の健康増進のための看護 7. 思春期の子どもと健康増進のための看護 【目標2】 1. 病気や入院が子どもと家族に与える影響とその看護 2. さまざまな状況にある子どもと家族への看護 A. 外来における子どもと家族 B. 検査や処置を受ける子どもと家族 C. 活動制限が必要な子どもと家族 D. 隔離が必要な子どもと家族 E. 先天的な問題をもつ子どもと家族 F. 手術を受ける子どもと家族 G. 心身障害のある子どもと家族 H. 急性期にある子どもと家族 L. 救急処置が必要な子どもと家族	
2	子どもの健康問題についての討議			
3	同上			
4	同上			
5	同上			
6	同上			
7	同上			

教科書	特に使用しない
参考書	参加学生の興味関心によって、選択する

授業科目名	精神臨床看護学	単位認定者	松岡治子
対象学年	第3学年	学期	前期
単位数	2単位(30コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義, 演習(看護過程)
科目の目的	精神に障害をもつ人に見える世界・心情を科学的にも説明することができて, その対象個々が求める援助の在り方について正しく理解する。
学習到達目標	1. 精神に障害をもつ人と偏見なく関わられる。 2. 自分の心の問題と関連させて精神障害を考えられる。 3. 精神の健康な部分と病的部分とを正しく見分けられる。 4. 精神に障害をもつ人個々に必要な看護を科学的に説明できる。
関連科目	「精神看護学概論」「精神地域看護学」「心理学」「地域社会学」「解剖学」「疾病の成り立ち」「薬理学」「リハビリテーション概論」「社会福祉・社会保障制度論」「看護カウンセリング」「看護過程論」
成績評価方法	定期試験と授業の中で指示した提出課題

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	精神保健看護の基本	精神障害者が理解されてきた歴史と精神科看護の変遷について概説する。精神保健福祉法の要旨、看護者に求められる資質、精神障害者とのコミュニケーションの特徴、患者 看護者関係、観察のポイント等について概説する。	目標 3-1 精神医療看護の歴史と人権 A. 精神医療看護の変遷 a: 欧米における精神医療の歴史 b: 日本における精神医療の歴史 C: 精神医療における看護師の役割 B. 患者の権利 a: インフォームド・コンセント b: 行動制限 c: 隔離室の使用 C. リスクマネジメント a. 自殺・自殺企図 b. 転倒 c. 誤飲 d. 誤薬 e. 院内感染	
4				
5	精神状態・症状別看護援助	人間の持つ精神機能について概説する。また、精神の健康障害や精神症状によって影響された患者の状態をアセスメントし、さまざまな状態像にある看護について概説する。	目標 2-2 看護援助技法 A. 症状アセスメント a. 不安 b. 抑うつ c. 幻覚 d. 妄想 e. 強迫 f. せん妄 g. 痴呆 h. 離脱症状 B. 精神状態・問題行動と看護援助方法 a. 不安緊張状態 b. ひきこもり状態 c. 抑うつ状態 d. 躁状態 e. 幻覚妄想状態 f. 意欲減退状態 g. 不眠状態 h. 拒絶・拒否 i. 攻撃的行動 j. 操作・試し行為 k. 強迫行為	
10				
11	精神の健康障害と看護援助 ・統合失調症患者の看護 ・感情障害患者の看護	統合失調症の急性期、慢性期にある患者に対する援助の方法について説明する。統合失調症の精神病理、発症の背景、統合失調症の治療 統合失調症のさまざまな状態(幻覚・妄想、無為自閉、拒絶、昏迷など)にある患者に対する援助の方法について説明する。 軽度、重度うつ状態および躁状態にある患者にみられる身体症状(不眠、食欲不振等)および精神症状(抑うつ、不安などの感情障害、昏迷、抑制などの意欲・行動障害等)について事例を通して説明する。躁鬱病の精神病理、発症因子、躁鬱病の治療	目標 2-3 精神科治療と看護【必修問題(a. うつ b. 統合失調症)】 A. 精神疾患の診断基準 a. 統合失調症 b. 気分障害 c. 神経症および心因反応 d. 人格障害 e. 物質(アルコール、薬物)関連障害 f. ストレス関連障害 g. 器質性精神疾患 h てんかん. i. 心身症	
14				

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
15	・神経症性障害患者への看護	神経症性障害の看護援助について事例を通して概説する。		
16	・アルコール依存症の看護	アルコール依存症の看護について概説する。		
17	リエゾン精神科看護	精神的危機が生じる医療・看護の中で精神看護的知識や技術を基盤とした助言を行い、患者・看護者関係を築くためのコンサルタントをするリエゾン精神看護を概説する。家族への支援について概説する。	目標 1-1 精神の健康 D. リエゾン精神看護 a. 身体疾患をもつ患者の精神の健康 b. 患者・家族の精神の健康 c. 看護職者の健康	
18	社会復帰活動と看護	社会復帰活動(作業療法・レクリエーション療法・生活指導・SST)の歴史的変遷および看護活動について説明する。また、精神科デイ・ケアの目的と活動の実際について説明する。  精神の健康上の問題をもつ人が、地域で生活していくために必要な援助とそれを支える支援システムについて概説する。	目標 3-2 地域精神保健 A. 精神福祉の法制度 a. 精神保健福祉法の基本的考え方 b. 精神保健福祉法による入院の形態 c. 精神保健指定医 d. ホムヘルプサービス B. 社会復帰・社会参加 a: 社会復帰施設 b: デイケア c: 小規模作業所 d: グループホーム e: 生活支援センター f: セルフヘルプグループ C. 地域生活支援の技術 a. 生活技能訓練 SST (Social Skill Training) b. 訪問看護 c. ケアマネ - ジメント d. 看護相談面接 D. 生活の場と精神保健 a. 家庭(育児ノイロゼ, 介護疲れ, 虐待) b. 学校(不登校, いじめ, 無気力) c. 職場(パワハラ, 自殺, 過労死)	
19				
20	事例展開	事例(精神分裂病、うつ病事例)を用いた看護過程の展開: グループワークと発表により看護診断について学習する。	目標 2 - 2 看護援助技法 A 症状アセスメント B 精神状態・問題行動と看護援助方法  目標 2 - 3 精神科治療と看護 A 精神疾患の診断基準 B 臨床検査 C 身体療法 D 精神療法 E 活動療法 F 治療環境	
29	発表・まとめ			
30				

教科書	
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「精神障害者のクリニカルケア」川野雅資・長野勝(メヂカルフレンド社)</li> <li>・「精神看護学」田中美恵子(医歯薬出版)</li> <li>・「ナ - シニグ・グラフィカ 32 精神看護学 - 情緒発達と看護の基本」出口禎子(メディカ出版)</li> </ul>



授業科目名	精神地域看護学	単位認定者	齋藤和子
対象学年	第3学年	学期	前期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	精神障害者を地域社会に居住する生活者として捉え、精神障害の予防、精神障害者対策、精神障害者支援等における看護師、保健師の役割、機能等を学習し、技術を習得する。
学習到達目標	1. 地域社会における行政機関、医療機関、社会復帰支援機関等の組織、機能等を理解する。 2. 各機関における看護師、保健師等の役割、およびソーシャルワーカー、作業療法士等、他の専門職者との協力のありかたを理解する。 3. 事例を通して知識、技術を確認し、知識および技術を自己自身に定着させる。
関連科目	生命倫理、地域社会学、地域保健行政、保健統計基礎、精神看護学概論、精神臨床看護学、社会福祉・地域サービス論
成績評価方法	定期試験、随時提出のレポート評価

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1 2	地域精神保健の考え方	精神障害者対策の歴史 地域社会における生活者としての精神障害者	2-D 生活の場と精神保健	9-A 精神保健の動向 a) 精神保健の理念、歴史的変遷 9-B 精神障害者の生活上の障害と保健指導 a) 精神障害者の生活の捉え方 b) 発症に關する疾病の発生過程、予防、他
3 4	地域保健行政における精神保健の仕組み 精神保健福祉行政の仕組み	精神障害者を支える地域ケアシステム 精神保健福祉法の概要	2-A 精神保健福祉の法制度 2-A 精神保健福祉の法制度 a) 精神保健福祉法の基本的な考え方	9-A b) 精神保健施策と保健師活動、c) 地域・集団の精神保健、優先順位、他 9-B 社会復帰へのはたらきかけ、精神保健活動 9-B c)
5 6	社会復帰支援	社会復帰支援の法的位置づけとそのための施策と事業内容	2-B 社会復帰・社会参加 a) 社会復帰施設 b) デイケア c) 小規模作業所 d) グループホーム e) 生活支援センター f) セルフケアグループ	d) 地域のサポートシステム、社会復帰
7 8	市町村における地域精神保健福祉活動の実際	市町村保健師による指導の実態	2-D 生活の場と精神保健 a) 家庭 c) 職場	9-C a) 薬物乱用 b) アルコール依存
9 10 11 12	保健所における地域性精神保健福祉活動の実際 看護技術	保健所保健師による指導の実際 ケアマネジメント	2-D a) 家庭 b) 学校 2-A d) ホームヘルプサービス 2-C b) 訪問看護 c) ケアマネジメント d) 看護相談面接	9-C c) 自殺 d) 家庭内暴力 e) いじめ 9-A a) 9-B c)
13 14 15	事例研究 まとめ	看護診断、看護計画作成、面接および訪問看護の実際 精神地域看護学において必要な知識と技術のまとめ	2-C b)c)d)	9-A a) 9-B c)

教科書	「新体系看護学第34巻 精神看護学 精神看護学概論・精神保健」佐藤壹三(メヂカルフレンド社)
参考書	「我が国の精神保健福祉」精神保健福祉研究会監修(株式会社太陽美術発行)

授業科目名	看護カウンセリング	単位認定者	齋藤和子
対象学年	第4学年	学期	後期
単位数	1単位(7.5コマ)	必修・選択	選択

指導方法	講義
科目の目的	患者の多様化が進む中で、看護の基本である患者・家族との関わりについて学ぶ。カウンセリングの技術を看護に適用する。看護カウンセリングの役割を理解するとともに、基本的な面接技法や心理アセスメントについて学習し、臨床場面で実践できることを目指す。
学習到達目標	1. 患者・家族との関わりについて理解できる。 2. 看護カウンセリングの理論・方法・役割を理解できる。 3. 基本的な面接技法や心理アセスメントを臨床場面で活用できる。
関連科目	心理学 精神看護学概論 精神地域看護学 精神臨床看護学 発達心理学 老年心理学 カウンセリング 他
成績評価方法	出席状況、レポート

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	看護カウンセリングとは、看護カウンセリングの方法	対象への看護援助過程の中でカウンセリングの行為は看護機能のなかに統合され、臨床の場面でいつでも展開されている。カウンセリングの理論やその考え方、態度、技術を実践の場で活かせるよう学習する。		
2				
3	・対象者とのかかわりを振り返る ・自己理解、言語的・非言語的コミュニケーション ・積極的傾聴、傾聴とフィードバック	自己の考え方、感情の持ち方、行動など自分自身の内面と向き合うとともに、病む人のおかれている状況について考えられる技術を学習する。 コミュニケーション理解のために、自己理解、非言語的コミュニケーション、言語的コミュニケーション、会話の実際、人間の理解について学習する。		
6	事例検討・ロールプレイ	事例をとおしてカウンセリングのプロセスを学習する。		
7	ピアカウンセリング実習	対話の記録と分析を行う体験学習をとおして、自己理解、他者理解、コミュニケーションについて理解を深める。		
8	まとめ			

教科書	特になし
参考書	「ケアの質を高める看護カウンセリング」飯田澄美子・見藤隆子編著（医歯薬出版）

授 業 科 目 名	地 域 看 護 活 動 論	単 位 認 定 者	矢 島 正 栄
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	前 期
単 位 数	2 単 位 ( 3 0 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義・演習
科 目 の 目 的	地域で生活する人々を捉える視点を教授し、人々の主体性を尊重した援助の基本姿勢を育成する。また、地域及び集団を単位とした健康問題の探求と、問題解決に向けた組織的・計画的な活動の展開方法を教授する。さらに、保健計画の策定・遂行・評価、及び施策化に関わる看護専門職の役割、地域看護管理について理解を深める。
学 習 到 達 目 標	1. 地域の特性と、そこで生活する人々の様子や健康・生活上のニーズを捉えることができる。 2. 地域で生活する人々の主体性を尊重し、人々の協働による問題解決を支援するための保健師の基本姿勢がわかる。 3. 地域及び集団の健康管理の考え方と方法がわかる。 4. 地域の関係機関、関係職種との連携の必要性とその方法がわかる。 5. 保健計画の意義、策定・遂行・評価のプロセスと看護専門職の役割がわかる。
関 連 科 目	地域看護学概論、地域看護活動論、地域看護活動論
成 績 評 価 方 法	試験、演習内容、レポート

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	地域保健活動の対象のとらえ方 1	地域保健活動の対象、地域の健康問題の捉え方、健康問題の構造		地域看護学 3. 社会環境の変化と健康課題 A. 社会情勢の変遷 a) 人口構成の変化 b) 疾病構造の変化 c) 科学技術の発展 d) 経済・産業構造の変化 e) 地域社会の構造の変化 f) グローバリゼーション C. 健康に影響する生活環境要因 a) 文化・価値観の多様化 b) 生活構造 c) 家族形態 d) 労働形態 e) 生活環境(公害・環境汚染) f) 社会病理 4. 地域の人々の保健関連行動 A. 個人の健康課題への対処行動 a) セルフケア行動 b) ウェルネス行動 c) 学習行動 d) 支援<ヘルピング>行動 e) 求援行動 f) 病気への対処行動 g) 受療行動 h) 遵守行動 B. 組織としての健康課題への対処 a) 健康課題に対する組織の理念 b) 健康課題への対処行動
2	地域保健活動の対象のとらえ方 2	現代日本人の生活と健康問題		
3	地域保健活動の対象のとらえ方 3	対象の健康課題への対処行動		
4	地域保健活動の展開 1 地区把握	地区把握・問題発見の考え方と方法		
5	地域保健活動の展開 1 地区把握	"		
6	地域保健活動の展開 2 地区診断	地区診断の目的と方法		
7	地域保健活動の展開 3 活動方針・活動目標の設定	活動方針・活動目標の考え方と盛り込むべき内容、優先順位の考え方		地域看護学 1. 地域診断と情報収集 A) 地域特性、地域集団の特性の把握 a) 地区診断の概念、アセスメントの方法 b) 日常的な保健師活動からの潜在・顕在ニーズの把握と分析 c) 住民ニーズの把握と住民の意見聴取 d) 既存の統計資料の分析と解釈 e) 社会資源・関係機関の把握と分析 f) 実態調査 2. 活動・事業計画と保健師の役割 A. 活動目標・事業計画の策定
8	地域保健活動の展開 4 地域保健活動計画の立案	地域保健活動計画立案のプロセス		
9	地域保健活動の展開 4 地域保健活動計画の立案	必要量・稼働量の算定、予算化、地域保健活動計画と住民参加		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
10	地域保健活動の展開 5 活動計画の実践 と評価	地域保健活動のモニタリングと計画の修正、地域保健活動の評価の目的と考え方		a)情報分析と健康課題の提示 b)解決すべき健康問題の特定、優先順位の決定 c)目的・目標の明確化と合意形成 d)計画の根拠の明確化 e)活動内容・方法の選定と手順 f)保健師活動の必要量と稼働量 g)マンパワー・予算の確保
11	地域保健活動の展開 5 活動計画の実践 と評価	地域保健活動の評価に用いる指標と評価方法		B. 計画の推進(進行管理、計画調整)
12	保健計画と保健師の活動 1	保健計画とは		a)関係者との連絡・調整 b)事業の運営、モニタリング c)計画変更などの調整 C. 計画の見直し、評価
13	保健計画と保健師の活動 2	保健計画の構成、保健計画の策定過程、保健計画を実現させるための条件・方法、保健計画の評価		a)計画の達成状況の確認 b)評価(目標、計画・企画、運営のプロセスの評価) c)事業の効果測定(コストベネフィットを含む) d)次年度への反映
14	保健計画と保健師の活動 3	保健計画の策定・推進・評価における保健師の役割 施策化の考え方と保健師の役割		3. 自治体(保健所・市町村)における計画策定・施策化と予算のしくみ A. 保健福祉対策と事業計画・評価 a)公共政策と保健計画 b)都道府県および市町村の基本的な計画の位置づけ c)法制度や条例に基づく保健計画の策定 d)新たな健康課題を解決する事業計画の策定 e)計画策定への住民参加の促進 f)保健政策と医療・福祉・教育・労働・産業等の政策との連携 g)評価(健康課題と達成状況の提示)
15	地域看護管理 1	管理の基本		B. 予算のしくみ
16	地域看護管理 2	人事管理、業務管理、予算管理、情報管理 危機管理(リスクマネージメント)		a)予算(活動の財政的計画) b)予算編成と執行 4. 地域看護管理 A. 地域看護管理のしくみ a)地域における保健活動・在宅ケアの方向づけ b)サービスの提供体制の整備、指導・監視 c)コミュニティの健康水準の向上への提言 d)職員と住民の権利保障 e)職業倫理 B. 情報管理 a)関連情報の収集、情報ネットワークの構築 b)情報管理の方法 c)情報開示、マスコミ対応 d)個人情報の保護 C. 地域ケアの質と保証 a)サービス提供組織の診断 b)地域における看護の継続性、総合性の推進 c)他職種・他機関との事例検討 d)地域の特性をいかした社会資源の開発と管理 D. 組織運営・管理 a)組織目的、各部門の役割、指示系統の確認 b)業務管理 c)他部門との連携、情報の共有、協働 E. 人材育成 a)人材育成方針の策定(組織内) b)現任訓練、教育研修の計画と評価 F. 予算管理 a)保健事業と人材育成の予算編成 b)目的、効率・効果、代替案の明確化 c)主務者、財務部門、議会への説明
17 ~ 28	演習 地区診断と地域保健 活動計画作成演習	1. 目的 地域住民のヘルスニーズの把握方法と、ヘルスニーズに対応させた地域保健活動の展開方法を理解する。  2. 方法 1)対象地域:高山村 2)内容:対象地域の地区把握・地区診断・健康問題の分析・地域保健活動計画の作成・地域保健活動評価計画の作成 3)実施方法:グループ毎に母子、成人等の1領域を担当する。		
29 30	発表会 地域保健活動計画報告・検討会	各グループが作成した地区活動計画を発表し、内容について全体討議を行う。 助言者:高山村保健師		

教科書	「最新保健学講座5 地域看護管理論」平野かよ子編集(メヂカルフレンド社)
参考書	「国民衛生の動向2008」(財団法人厚生統計協会)

授 業 科 目 名	地 域 看 護 活 動 論	単 位 認 定 者	小 林 亜 由 美
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	前 期
単 位 数	3 単 位 ( 4 5 コ マ ) 本年実施分は 15 コマ	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義（オムニバス方式）
科 目 の 目 的	ライフステージや健康障害など個人と、産業、学校など場の特性に応じた地域看護活動について、その理念と特質を学び、実践の基礎となる知識を習得する。
学 習 到 達 目 標	（学校保健）1. 養護教諭の職務に関して、その機能と役割を理解し養護教諭に求められる資質、能力を習得する。 （産業保健）1. 事業場内の労働衛生管理体制のもとに行われている、産業保健活動（健康管理・作業管理・作業環境管理）を理解する。2. 今日における労働者の健康問題の現状と動向を知る。3. 職場における健康問題を解決するため、個別的・集団的・組織的展開方法を知る。
関 連 科 目	地域看護学概論 地域看護活動論 地域看護活動論 在宅看護活動論 保健指導論 公衆衛生学 成人・老年看護学概論 母性看護学概論 精神看護学概論 精神地域看護学
成 績 評 価 方 法	筆記試験（母子保健・成人高齢者保健 H21 年度に済）（学校保健）（産業保健）にて領域毎に評価した上で、それらを総合的に評価したものを本科目の成績とする。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	(学校保健) 養護教諭の職務	養護教諭制度の沿革、養護教諭の職務内容の変遷、 学校教育における養護教諭の役割		1-A-a)学校保健・看護の定義 b)養護教諭の役割・機能 B-a)学校看護職の誕生、社会背景 b)戦後の学校保健、養護教諭の活動 c)学校保健・看護活動の実態
2	学校保健(1)	学校保健法、学校保健の領域、学校保健のしくみ		C-a)学校保健に関する法体系 b)学校保健組織と人材 c)保健室の機能、保健室運営 d)安全管理、危機管理 e)学校給食
3	学校保健(2)	学校保健情報と健康実態の把握、 学校保健目標と学校保健計画 学校保健組織活動		E-a)学校保健計画 F-a)環境調整の意義 b)環境管理 c)環境教育 d)地域保健、産業保健との連携
4	養護教諭の職務の実際(1)	保健室の機能と運営 学校環境衛生活動		
5	養護教諭の職務の実際(2)	健康診断 健康相談、疾病の予防と管理		E-b)健康診断と事後措置 d)感染症の予防・対策
6	養護教諭の職務の実際(3)	健康観察 救急処置と救急体制		E-e)個別援助 D-a)発達段階別健康課題
7	養護教諭の職務の実際(4)	健康相談活動		b)不登校 c)障害児 d)いじめ
8	養護教諭の職務の実際(5)	保健教育活動		E-c)健康教育
9	(産業保健) 産業保健・看護の理念と目的	産業保健・看護の定義、産業看護職の機能 産業保健・看護に関連する健康問題や支援の歴史的経緯と今日のヘルスニーズ		A-a)産業保健・看護の変遷、社会背景 b)産業保健・看護活動の実態
10	産業保健・看護の歴史と現状 産業保健・看護の制度とシステム	労働安全衛生に関する法体系 産業保健組織とスタッフの役割 健康支援を行う関連機関		C-a)労働安全衛生に関する法体系 b)産業保健組織と人材 c)産業保健・看護と社会資源
11	産業保健・看護における主な健康課題と対策	職業性疾病の種類と予防対策 作業関連疾患の種類と予防対策 職場のメンタルヘルスケア・ストレス対策 職場の安全管理		D-a)職業性疾患の種類、予防対策 b)作業関連疾患の種類、予防対策 c)職場のメンタルヘルスケア、ストレス対策 d)職場の安全管理
13	産業保健・看護の役割・特徴と活動の展開	産業看護職の役割 産業保健計画と評価 個別的・集団的・組織的展開方法		E-a)保健師の職務 b)産業保健計画と評価 c)個別的・集団的・組織的展開方法 d)地域保健との連携
14				
15	授業内試験	(学校保健)(産業保健)		

教 科 書	(学校保健) 新版・養護教諭執務のてびき 第4版(東山書房) (産業保健) 最新保健学講座4.地域看護活動論、ライフステージの特性と保健活動(メジカルフレンド社)
参 考 書	

授業科目名	在宅看護活動論	単位認定者	小笠原映子
対象学年	第3学年	学期	前期
単位数	2単位(30コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義、演習
科目の目的	在宅療養を支える社会資源とそれらを有効に機能させるための方法を理解する。また、在宅看護と生活援助に必要な知識と基本技術を習得すると共に、家族への看護技術指導を実施できることを目指す。
学習到達目標	1.在宅ケアに係わる関係機関・関係職種とそれらを有効に機能させるための方法を理解できる。2.基本的な生活援助の技術を習得する。3.特種な処置・管理を要する在宅患者の援助に必要な知識と技術を習得する。4.家族への看護技術指導に必要な知識と看護技術を身につける。
関連科目	歯科保健、看護ケア方法論、成人看護学、老年看護学、小児看護学、地域看護学概論、地域看護活動論
成績評価方法	筆記試験、レポート

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1 2 3 4	在宅看護の特徴  在宅看護の展開	在宅における看護活動 関係職種と社会資源 在宅療養者の権利保障 地域におけるケア提供機関  継続療養における在宅看護 在宅看護への接続・連携 / 専門職者との連携 在宅看護成立の条件 退院計画と継続看護【退院指導と退院計画、プランの共有、家族・患者の意思、退院計画実践方法】	目標 1-3-A 生活の自立支援 目標 2-2-A 在宅医療と社会制度 目標 1-3-E チームケアの重要性 目標 1-3-F ケアマネジメントと看護の役割 目標 1-3-D 家族介護者の理解と健康支援 目標 1-3-C 生活の中で起こる問題の予測と予防 目標 2-2-B 薬物療法 目標 2-2-C 在宅人工呼吸療法 目標 2-3-C 難病による療養者 目標 2-1-B 排泄 目標 2-2-E 膀胱留置カテーテル法 目標 2-2-H 在宅褥創管理 目標 2-1 在宅における生活支援の方法と技術-A 食 目標 2-2-F 在宅経管栄養・経腸栄養法 2-2-G 在宅中心静脈栄養法 目標 2-3-E 生活自立困難者 目標 2-3-B 認知症高齢者 目標 2-3-A 寝たきり者 目標 2-3-D ケミカル期の療養者 目標 1-3-B 病状・病態の変化の予測と予防 目標 2-1-C 清潔 目標 2-1-D 移動	3-C-a) 関係する法体系 b) 組織と人材 E-a) 訪問看護ステーション管理 b) 地域ケアシステムづくり c) 在宅看護の質評価・管理 C-c) 社会資源 D-c) 介護の人的資源確保・開発 d) 介護の物的資源確保・開発 e) 在宅ケアのサービス活用・法的根拠
5 6	在宅療養者と家族看護	在宅療養者と家族看護の特徴(理論と実際) 【家族の機能】【看護学における家族】		
7 8	在宅療養者の日常生活援助	脳血管病患者、認知症者の支援、難病患者の在宅看護 ねたきり者の支援・在宅におけるターミナルケア		
9 10	在宅療養者と家族支援1 在宅療養者と家族支援2	在宅酸素療法、在宅人工呼吸療法、吸引・気管切開のケア		
11 12	在宅療養者と家族支援3 在宅療養者と家族支援4	経管栄養、在宅中心静脈栄養		
13 14	在宅療養者と家族支援5 在宅療養者と家族支援6	CAPD療法、ストーマケア、褥瘡ケア  膀胱留置カテーテル管理		
15 16	在宅療養者と家族支援7 在宅療養者と家族支援8	がん患者の痛みの治療法、事故防止(転倒防止、環境整備、窒息防止、熱傷防止)、感染対策、服薬管理		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
17   18   19   30	在宅療養者と家族支援 9 在宅療養者と家族支援 10  在宅看護技術 1-8 在宅看護過程の展開 1-4	演習オリエンテーション 在宅看護の看護過程の特徴  <演習内容> 在宅看護における看護診断 在宅看護過程の展開 訪問看護計画の作成 在宅看護の展開 演習報告会	グループ毎に、演習およびグループワークを行う。詳細は、演習時に説明する。	

教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護保険制度に関するパンフレット(1冊 100円程度)</li> <li>・訪問看護サービス(日本訪問看護振興財団)</li> <li>・「在宅看護論 実践をことばに―第5版」杉本正子・真船折子 著(ヌーベルヒロカワ)</li> <li>・最新保健学講座 5.地域看護活動論 心身の健康問題と保健活動(メジカルフレンド社)</li> <li>・国民衛生の動向</li> </ul>
参考書	・「自立支援のための患者ケア技術」初山泰弘・潮見泰蔵・斎藤昭彦(医学書院)

授業科目名	保健指導論	単位認定者	矢島正栄
対象学年	第4学年	学期	後期
単位数	1単位(7.5コマ)	必修・選択	選択

指導方法	講義・演習
科目の目的	学生が自ら健康教育を企画・運営・評価することをとおして、地域の人々を対象とする集団教育の展開方法と、教育的働きかけの方法を学ぶ。
学習到達目標	1. 集団教育の計画・実施・評価の一連の過程を実施できる。 2. 対象が健康を保持増進させる行動をとれるよう援助する方法がわかる。
関連科目	地域看護学概論、地域看護活動論、地域看護活動論、地域看護活動論
成績評価方法	演習内容、レポート

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	オリエンテーション	<p>1. 学習課題</p> <p>1) 集団教育の対象・テーマの選定</p> <p>2) 地域特性や対象のニーズに応じた教育の目的・目標設定</p> <p>3) 教育効果、対象の利便性及び実施者側の条件を考慮した計画立案</p> <p>4) 対象の主体的な参加を促進する方法の工夫</p> <p>5) 教育の効果考えた会場設営や進行の方法の工夫</p> <p>6) 対象の生活の営みや理解状況を踏まえた指導案の作成</p> <p>7) 集団における教育的働きかけ</p> <p>8) 集団教育の中で行われる個別の教育的働きかけ</p> <p>9) 教育の効果を高める媒体の作成</p> <p>10) 行動化を促すための動機づけや条件づくりの方法の工夫</p> <p>11) 健康教育の評価計画の立案と評価の実施</p> <p>2. 実施方法</p> <p>5~7人のグループを編成し、グループ毎に地域住民を対象とする健康教育の計画立案、実施、評価を行う。</p> <p>3. 演習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 健康教育企画の立案(評価計画を含む)</li> <li>・ 指導案の作成</li> <li>・ 教育媒体の作成</li> <li>・ 健康教育の実施準備</li> <li>・ 健康教育の実施</li> <li>・ 健康教育の評価</li> </ul>		<p>地域看護学</p> <p>5. 健康教育</p> <p>A. 目的と対象、技術</p> <p>a) 健康教育の目的、特性</p> <p>b) 対象、種類と特性</p> <p>c) 健康教育に用いる基礎理論</p> <p>B. すすめ方</p> <p>a) 地域のニーズ把握・アセスメント、事業の立案</p> <p>b) 参加対象と参加動機</p> <p>c) 指導案づくり・媒体の工夫</p> <p>d) 実施準備・実践</p> <p>健康教育の評価</p> <p>e) 事後フォローアップ</p> <p>f) 参加対象への自立支援・組織化</p>
2	演習			
6				
7	健康教育実施			
8	評価			

教科書	「最新保健学講座2 地域看護支援技術」村嶋幸代編(メヂカルフレンド社)
参考書	



授業科目名	成人看護学実習	単位認定者	鈴木 珠 水
対象学年	第 3 学年	学期	後 期
単位数	4 単位 ( 4 週間 )	必修・選択	必 修

指導方法	病棟実習
科目の目的	既習の知識、技術を用いて、慢性的健康障害をもつ成人期にある対象を総合的にとらえ、一連の看護過程を実践する能力を養うことを目的とする。
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>慢性期にある患者の特徴が理解できる。</li> <li>終末期にある患者および家族の特徴が理解できる。</li> <li>アセスメントおよび介入計画の立案・実施・評価ができる。</li> <li>患者の心身の苦痛を緩和するための援助ができる。</li> <li>治療検査時の患者の援助ができる。</li> <li>慢性期にある患者および家族が疾病と障害を理解し、セルフマネジメント能力を獲得できるよう支援できる。</li> <li>看護活動の記録および報告ができる。</li> <li>医療チームのあり方と医療従事者としての基本的態度を理解し行動できる。</li> </ol>
関連科目	人体の構造と機能・疾病の成り立ちと回復の促進・薬理学・基礎看護学・老年看護学・在宅看護学
成績評価方法	出席状況(実習態度含む)・実習記録およびレポート・実習評価表

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
	オリエンテーション	実習目的、目標、実習方法、留意事項等に関する説明	必修問題	
	病棟実習	病棟オリエンテーション(病棟の特徴、病棟の看護体制、看護方式、病院の構造・設備、病棟の構造・設備、学生控え室使用上の注意、患者紹介)	.看護の社会的側面および倫理的側面に関する基礎的知識を問う。 .看護の対象者および看護活動の場に関する基礎的知識を問う。 .看護に必要な人体の構造と機能および健康障害と回復についての基礎的知識を問う。 .看護技術の基礎的知識を問う。	
	受け持ち患者に対する看護過程展開	受け持ち患者を紹介してもらい、アセスメント・看護診断・看護目標設定・介入計画立案・実施・評価の一連の看護過程を展開する。  詳細は「成人看護学実習要綱」参照	人体の構造と機能 目標 1. 日常生活を営む上で、人体がどのような構造をもち機能しているかについての理解を問う。 疾病によって人体が受ける構造と機能の変化を学習する土台となる正常な人体についての理解を問う。 疾病の成り立ちと回復の促進 目標 1.生活との関連において健康から疾病に至る変化のプロセスについての理解を問う。 目標 2.看護の役割を理解し生活を調整するために、さまざまな疾病がもたらす身体内部の変化についての理解を問う。 目標 3.回復に向けて生活を調整するために、生存・生活機能別疾病の特性についての理解を問う。 基礎看護学 目標 1.看護の基本となる概念についての理解を問う。 目標 2.基本的看護技術に	

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
			<p>についての理解を問う。            目標3. 保健・医療・福祉の中で看護の果たす役割についての理解を問う。  <b>成人看護学</b>            目標1. 成人の生活と健康問題についての理解を問う。            目標2. 成人を看護するときの基本的なアプローチについての理解を問う・            目標3. 成人の健康レベルに応じた看護実践についての理解を問う。            目標4. 機能障害をもつ成人への看護実践について問う。  <b>老年看護学</b>            目標1. 高齢者の特徴とその生活についての理解を問う。            目標2. 高齢者の生命維持・健康生活維持のための看護実践についての理解を問う。</p>	

教科書	「系統看護学講座 成人看護学 2 - 1 5 」(医学書院)
参考書	随時紹介する。

授業科目名	成人看護学実習	単位認定者	北林司
対象学年	第3学年	学期	後期
単位数	4単位(4週間)	必修・選択	必修

指導方法	病棟実習(医療法人社団日高会 日高病院)
科目の目的	既習の知識、技術を用いて、急性期の健康障害をもつ成人期にある対象を総合的にとらえ、一連の看護過程を実践する能力を養うことを目的とする。
学習到達目標	1. 周手術期にある患者の特徴が理解できる。 2. 手術によって生じた身体変化に応じた生活を営むための援助が理解できる。 3. アセスメントおよび介入計画の立案・実施・評価ができる。 4. 治療検査時の患者の援助ができる。 5. 急性期にある患者および家族が疾病と障害を理解し、セルフマネジメント能力を獲得できるように支援できる。 6. 看護活動の記録および報告ができる。 7. 医療チームのあり方と医療従事者としての基本的態度を理解し行動できる。
関連科目	解剖学・解剖学・生理学・疾病の成り立ち・薬理学・基礎看護学・老年看護学・在宅看護活動論
成績評価方法	出席状況(実習態度含む)・実習記録およびレポート・実習評価表

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
	オリエンテーション	実習目的、目標、実習方法、留意事項等に関する説明	必修問題	
	病棟実習	病棟オリエンテーション(病棟の特徴、病棟の看護体制、看護方式、病院の構造・設備、病棟の構造・設備、学生控え室使用上の注意、患者紹介)	.看護の社会的側面および倫理的側面に関する基礎的知識を問う。 .看護の対象者および看護活動の場に関する基礎的知識を問う。 .看護に必要な人体の構造と機能および健康障害と回復についての基礎的知識を問う。 .看護技術の基礎的知識を問う。	
	受け持ち患者に対する看護過程展開	受け持ち患者を通して、アセスメント・看護診断・看護目標設定・介入計画立案・実施・評価の一連の看護過程を展開する。  詳細は「成人看護学実習要綱」参照	人体の構造と機能 目標1. 日常生活を営む上で、人体がどのような構造をもち機能しているかについての理解を問う。 疾病によって人体が受ける構造と機能の変化を学習する土台となる正常な人体についての理解を問う。 疾病の成り立ちと回復の促進 目標1.生活との関連において健康から疾病に至る変化のプロセスについての理解を問う。 目標2.看護の役割を理解し生活を調整するために、さまざまな疾病がもたらす身体内部の変化についての理解を問う。 目標3.回復に向けて生活を調整するために、生存・生活機能別疾病の特性についての理解を問う。	
			基礎看護学 目標1.看護の基本となる概念についての理解を問	

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
			う。 目標 2. 基本的看護技術についての理解を問う。 目標 3. 保健・医療・福祉の中で看護の果たす役割についての理解を問う。 <b>成人看護学</b> 目標 1. 成人の生活と健康問題についての理解を問う。 目標 2. 成人を看護するときの基本的なアプローチについての理解を問う・ 目標 3. 成人の健康レベルに応じた看護実践についての理解を問う。 目標 4. 機能障害をもつ成人への看護実践について問う。 <b>老年看護学</b> 目標 1. 高齢者の特徴とその生活についての理解を問う。 目標 2. 高齢者の生命維持・健康生活維持のための看護実践についての理解を問う。	

教科書	「系統看護学講座 成人看護学 1 - 15 」（医学書院）
参考書	随時紹介する。

授業科目名	老年看護学実習	単位認定者	伊藤まゆみ
対象学年	第3学年	学期	後期
単位数	4単位(4週間)	必修・選択	必修

指導方法	臨床実習
科目の目的	老年期にある対象者を総合的に理解し、保健医療福祉チームの一員として、既習の知識・尊重する態度・技術を活用し、対象者に応じた看護を展開する能力を養う。
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 老年期にある人の加齢変化や疾病による健康問題、生活行動、人生観やニーズなどの特性を観察、フィジカルアセスメント、コミュニケーション等を通してアセスメントし、理解する。</li> <li>2. 老年期にある人の看護問題に応じた個別的なケアプランを立案し、実施・評価する。</li> <li>3. 老年期にある人の特性や自立、安全に守るケア技術の実践方法を習得する。</li> <li>4. 老年期にある人の尊厳・権利の尊重に基づいたケア提供者としての態度を習得する。</li> <li>5. 老年期にある人のケアに関わる保健医療福祉の各専門職の役割と機能、連携について学習する。</li> </ol>
関連科目	老年看護学概論、老年看護学、老年看護学、老年看護学演習
成績評価方法	出席、実習内容、レポートによる総合評価

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習場所 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) ほたか病院</li> <li>2) グループホーム ベルジ吉岡たやの家 アムールタウン高崎</li> </ol> </li> <li>2. 実習内容・方法 詳細は、実習要項に記載する</li> </ol>		

教科書	「新体系 看護学全書 29 老年看護学 健康障害をもつ高齢者の看護」(メジカルフレンド社) 「新体系 看護学全書 28 老年看護学 老年看護学概論 老年保健」(メジカルフレンド社)
参考書	

授業科目名	小児看護学実習	単位認定者	野田 智子
対象学年	第3学年	学期	後期
単位数	2単位(2週間)	必修・選択	必修

指導方法	臨床実習
科目の目的	成長・発達の過程にある子どもの特徴を理解し、病気や障害があること、治療を受けることや病院に入院することが、子ども自身や家族にどのような変化をもたらすのかを学ぶ。さらに、子どもと家族がいきいきと生活できるための看護職としての援助の方法を学ぶ。
学習到達目標	1.子どもの日常生活に接し、子どもの特性を理解する。 2.子どもが、健康障害やそれに付随した環境の変化によってどのように影響されているのかを知る。 3.子どもや家族とのかかわりを通して、発達段階に応じた子どもとのコミュニケーションの展開方法を学ぶ。 4.子ども・家族にとって必要な援助を考え、実施・評価する。 5.子どもが医療を受けるさまざまな場と小児看護の特徴、保健医療チームにおける看護職の役割を学ぶ。
関連科目	母性・小児看護学(小児看護学概論、小児看護学、小児看護学特論、母性看護学概論、母性看護学、母性看護学特論) 基礎看護学各科目、成人老年看護学各科目、精神看護学各科目、地域看護学各科目、教養科目群(心理学、教育学、生命科学、生命倫理、生活学、家族学、地域社会学、環境論など) 臨床科目群(解剖学、生理学、発達心理学、疾病の成り立ち、免疫・感染症学ほか) 地域科目群(公衆衛生学、栄養学、健康管理論ほか)
成績評価方法	出席、実習内容、レポートによって総合的に評価する。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
		1. 実習場所 1) 群馬県立小児医療センター 第一病棟、第二病棟、NICU、PICU、母子保健指導室、リハビリテーション科、養護学校、産科病棟など  2) 前橋赤十字病院 小児科病棟など  3) 群馬県内保育園 2. 実習内容・方法 詳細は、実習要項において別途指示する	<b>【目標1】</b> 1. 子どもと家族の健康の概念 2. 子どもの成長と発達 3. 新生児の健康増進のための看護 4. 乳児の健康増進のための看護 5. 幼児の健康増進のための看護 6. 学童の健康増進のための看護 7. 思春期の子ども健康増進のための看護 <b>【目標2】</b> 1. 病気や入院が子どもと家族に与える影響とその看護 2. さまざまな状況にある子どもと家族への看護 A. 外来における子どもと家族 B. 検査や処置を受ける子どもと家族 C. 活動制限が必要な子どもと家族 D. 隔離が必要な子どもと家族 E. 先天的な問題をもつ子どもと家族 F. 手術を受ける子どもと家族 G. 心身障害のある子どもと家族 H. 急性期にある子どもと家族 L. 救急処置が必要な子どもと家族	

教科書	1. 「ナーシング・グラフィカ(29)小児看護学；小児看護技術」中野綾美編(メディカ出版)2007.
参考書	1. 「基礎看護学ヘルスアセスメント 成長発達に伴うアセスメント3-4章2節 子どものアセスメント」川村佐和子、城生弘美他編、木内妙子(メディカ出版)2004. 2. 以下、別途指示する

授業科目名	母性看護学実習	単位認定者	早川有子
対象学年	第3学年	学期	後期
単位数	2単位(2週間)	必修・選択	必修

指導方法	実習
科目の目的	妊娠・分娩・産褥期及び新生児を総合的にとらえ看護過程を展開する。また、母子の看護に必要な基礎的実践能力を養う。
学習到達目標	1. 妊婦・産婦・褥婦及び新生児とその家族に対する個別的な援助について理解する。 2. 妊婦・産婦・褥婦及び新生児の援助を実施するために必要な基本的技術が習得できる。 3. 妊婦・産婦・褥婦及び新生児の健康を保持増進するために必要な援助(健康教育)について学ぶ。
関連科目	教養科目群：生命科学 生命倫理 家族学 性別の社会科学 環境論 生物学基礎 専門基礎科目群：発達心理学 免疫・感染症学 社会福祉・地域サービス論 専門科目群：この科目の基盤となる専門科目の全て(主に小児看護学実習・地域看護学実習等)
成績評価方法	課題に対するレポート、出席状況、実習態度にて評価する。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
		実習期間：2週間 実習は、学内演習2日間、病棟実習(看護過程展開4日間) 選択実習(妊婦外来、不妊外来・妊婦・産婦・新生児の病棟、ヨガ教室4日間)からなる。実習開始日に病棟・外来のオリエンテーションを含む全体オリエンテーションを行い、最終日に全体カンファレンスを行なう。学生は1グループ5～6名のグループに分かれて実習する。 * 詳細は実習要項に記載する。		

教科書	妊・産・褥婦のよくあるトラブル 早川有子 著(医学書院) 母性看護学概論 母性看護学「1」 森恵美 著(医学書院) 母性看護学各論 母性看護学「2」 森恵美 著(医学書院)
参考書	

授業科目名	精神看護学実習	単位認定者	齋藤和子
対象学年	第3学年	学期	後期
単位数	2単位(2週間)	必修・選択	必修

指導方法	臨床実習
科目の目的	人の各期(小児期、青年期、壮年期、老年期)の特性を理解し、対象を総合的に捉え看護を実践する能力を養う。
学習到達目標	1. 人の各期の生理的变化とそれに伴う危機的問題を理解できる。 2. 精神障害をもつ対象を理解し、健康回復のために必要な援助ができる。 3. 対象の看護上の問題を把握し、看護計画を立案・実施・評価できる。
関連科目	精神看護学概論 精神臨床看護学 精神地域看護学
成績評価方法	課題に対するレポート、出席状況、実施態度にて評価する。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
	臨地実習	実習単位 2単位(2週間) 火曜日～金曜日 8日間 実習場所 厩橋病院 実習時間 原則として9時～16時 実習方法 <ul style="list-style-type: none"> <li>.オリエンテーション</li> <li>1.病院の特殊性について</li> <li>2.看護業務分担について</li> <li>3.日課、週間予定表について</li> <li>4.診療用具、看護用具、その他機械器具の保管場所</li> <li>5.その他</li> <li>.実習の進め方</li> <li>1.受け持ち患者の看護</li> <li>2.看護過程にそった看護の展開</li> <li>3.カンファレンスの実施</li> <li>.実習記録の提出</li> <li>.実習評価</li> </ul>		

教科書	
参考書	



授業科目名	在宅看護実習	単位認定者	小笠原映子
対象学年	第4学年	学期	前期
単位数	2単位(2週間)	必修・選択	必修

指導方法	臨地実習
科目の目的	在宅療養者とその家族に対する総合的な理解を深め、在宅ケアにおける看護の役割と支援方法、援助技術、在宅支援システムの実際について学ぶ。
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在宅看護の対象となる在宅療養者とその家族の特徴が理解できる。</li> <li>2. 在宅ケアにおける看護の役割が理解できる。</li> <li>3. 在宅療養者とその家族を対象とする支援方法が理解できる。</li> <li>4. 訪問看護ステーションの機能・役割が理解できる。</li> <li>5. 在宅ケアシステムの仕組みと活動の方法が理解できる。</li> </ol>
関連科目	在宅看護活動論 他 教養科目群、専門基礎科目群、専門科目群の全ての科目
成績評価方法	出席状況、実習態度、実習記録、実習のまとめレポート

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
	オリエンテーション	実習の目的、目標、方法、留意事項等に関する説明		
	訪問看護ステーション実習	実習場所： 青梨子訪問看護ステーション はたか訪問看護ステーション 訪問看護ステーションホームナース 群馬県看護協会訪問看護ステーション 訪問看護ステーション前橋南 訪問看護ステーション渋川 訪問看護ステーション高崎 訪問看護ステーションくろさわ		
	実習のまとめ	実習方法・内容： 詳細は実習要項に記載する。  実習をとおしての学びや反省を個人レポートにて報告するとともに、実習目標の到達状況を振り返り、今後の学習課題を明確にする。 また、在宅看護実習の実習体験を学生間で共有し、在宅ケアに関わる援助技術、在宅療養者を支えるケアシステムとそれに関わる専門職の役割について、実習指導者および教員を交えて学習を深める。 詳細は実習オリエンテーション時に説明する。		

教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「在宅看護論 実践をこぼにー第4版」杉本正子・眞船折子（ヌーベルヒロカワ）</li> <li>・最新保健学講座 5. 地域看護活動論 心身の健康問題と保健活動（メジカルフレンド社）</li> <li>・国民衛生の動向</li> <li>・在宅看護・介護技術テキスト/指導用リーフレット/講義用指導案（上武大学出版会）</li> <li>・在宅看護実習要項</li> <li>・看護学で使用したテキスト全部</li> </ul>
参考書	

授業科目名	地域看護学実習	単位認定者	矢島正栄
対象学年	第4学年	学期	前期
単位数	3単位(3週間)	必修・選択	必修

指導方法	実習
科目の目的	地域社会の生活集団を対象とした看護活動の方法と看護の展開に必要な技術を学び、看護専門職の役割を理解する。
学習到達目標	1. 住民の健康に影響する要因と、住民の健康を守るために有効な地区活動の展開方法がわかる。 2. 地域における保健師の活動形態の特質がわかり、地域看護の基本的技術を実施できる。 3. 保健医療福祉システムを有効に機能させるための看護専門職の役割がわかる。
関連科目	地域看護学概論、地域看護活動論、地域看護活動論、地域看護活動論
成績評価方法	実習内容、レポート

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
		1. 実習場所 ・ 渋川・沼田・中之条保健福祉事務所、並びに管内市町村保健センター ・ サンデン株式会社赤城事業所 2. 実習時期 4-7月 3. 実習内容 実習施設における地域保健活動の実際と、そこに勤務する保健師の活動をとおして地域看護活動の展開方法と保健師の役割を学ぶ。  詳細は、実習要項において別途提示する。		

教科書	
参考書	

授業科目名	卒業研究	単位認定者	( 学 科 教 員 )
対象学年	第 4 学 年	学 期	通 年
単 位 数	4 単 位 ( 6 0 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	演習
科 目 の 目 的	看護学における研究課題を学生自ら主体的に探求することを通して、総合的な理解力を養う。看護学及びそれに関連する以下の領域から、学生自身が講義・演習・実習を通して興味をもったテーマを選定し、看護研究論で学んだ理論に基づき、教員の指導のもとで研究を計画・実施し、さらに、その結果を発表・論文化する。
学 習 到 達 目 標	各講座指導教員のもと、自分の選定したテーマに従い研究計画を立て、実施し、その結果について論文を作成する。
関 連 科 目	既習の科目全てと関連する
成 績 評 価 方 法	卒業研究に取り組む過程および論文作成結果を総合して評価する

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	文献検索 研究計画立案 実施 ~ 論文作成	各講座指導教員の指導により研究計画を立て、実施し、その結果を論文として仕上げる。  基礎看護学に関する研究 指導教員：城生弘美、真砂涼子、馬醫世志子  成人看護学に関する研究 指導教員：(慢性期)鈴木珠水、萩原英子 (急性期)北林司  老年看護学に関する研究 指導教員：伊藤まゆみ  母性看護学に関する研究 指導教員：早川有子  小児看護学に関する研究 指導教員：野田智子、柴崎由佳  在宅看護学に関する研究 指導教員：小笠原映子  地域看護学に関する研究 指導教員：矢島正栄、小林亜由美、 小林和成		
60				

教 科 書	
参 考 書	